

ファンタジーの世界をひらく

おりがみ

6

特集

兜

豪華な作品から遊べる作品まで、
8点の作品を紹介

今月の動物

ハチドリとインコ

実用のおりがみ

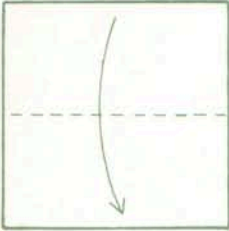

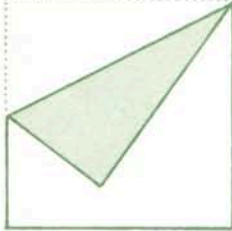
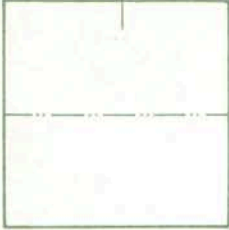

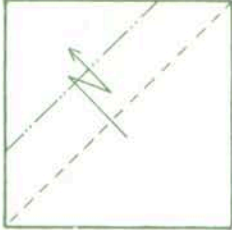
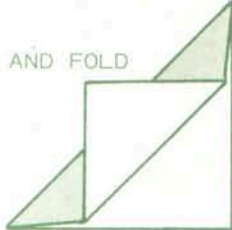
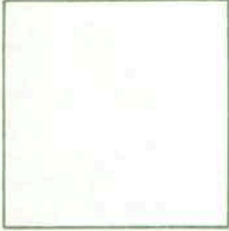

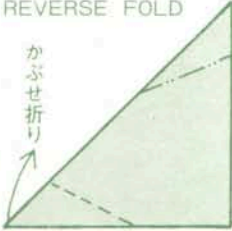
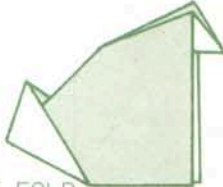
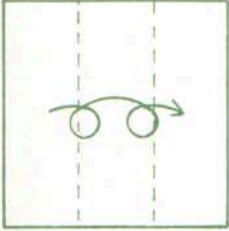




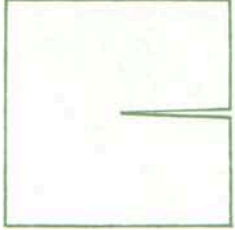
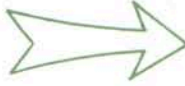

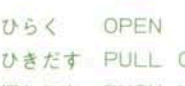
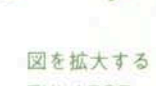
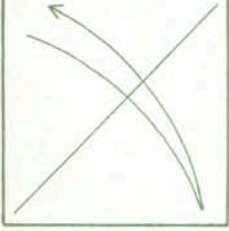
今月は便利な帽子とゴミバコ。
新聞紙や包装紙で折って下さい

おりがみ童話

「長ぐつの中のおひめさま」
初登場、立原えりかさんのメルヘンです

折り方の記号 SYMBOLS

(この本では次の記号によって折り方が示されています。)

 <p>谷折り線 補助記号 ▼</p> <p>VALLEY FOLD</p> 	 <p>仮想線 (元の形または 次の形などを 示す)</p> <p>PREVIOUS POSITION</p>
 <p>山折り線 補助記号 ▲</p> <p>MOUNTAIN FOLD</p> 	 <p>FOLD AND FOLD 段折り</p> 
 <p>裏がえす</p> <p>TURN MODEL OVER</p> 	<p>REVERSE FOLD</p>  <p>かぶせ折り 中わり折り</p> <p>REVERSE FOLD</p> 
 <p>まく または 同じ方向に くり返し折る</p> <p>FOLD OVER AND OVER</p> 	 <p>表に折る FOLD IN FRONT</p>  <p>裏へ折る FOLD BEHIND</p>
 <p>切りこみ線 または 切断線 補助記号</p> <p>CUT</p> 	 <p>ひらく OPEN</p>  <p>ひきだす PULL OUT</p>  <p>押しこむ PUSH IN</p>  <p>図を拡大する ENLARGE</p>
 <p>折り筋線</p> <p>FOLD AND UNFOLD TO CREASE</p>	<p>ABCDE... これらの記号は ●◆▲♥..... 必要に応じて随時使用します。</p>

おりがみ 目次

特集・兜

河合豊彰 6

豪華な兜が3点。美しい紙できれいに折って、部屋にかざってみたら…

特集・兜で遊ぼう

10

中野独王亭、滝本恒夫、青木光枝、大羽志功、奥田光雄
新聞紙や包装紙で折って下さい。

今月の動物

中野独王亭 14

ハチドリとインコ、中野先生の作品に挑戦して下さい。

幼児おりがみ

長野耕平—指導 30

折紙で、指人形ができます。たくさんの人形を作ってください。

実用のおりがみ

大橋皓也—指導 34

今月は、帽子とゴミバコ。家族そろって楽しくおそうじ。

おりがみ童話

立原えりか—文

「長ぐつの中のおひめさま」

寺田松雄—ペーパークラフト

石井英子—折紙

26

初登場、おりがみ童話。長ぐつの中のお姫さまの運命は、!

「あじさいへの想い」

井石 清 2

折紙セミナー (V)

大橋皓也 18

古典研究

千羽鶴への挑戦

加藤泗泉、木島一宣 28

古典から現代へ、千羽鶴の美しさの探究。

おりがみと幾何

阿部 恒 36

海外作品紹介

高浜利恵 38

シリーズ 人とおりがみ 内山興正

40

随筆

三木 卓、高見映、清水えみ子、水森亜土、井上えつ子 42

「おりがみ広場」

44

みなさんが自由に参加して、おしゃべりするページ。

応募と添削

選と評—大橋皓也 46

編集後記

48

表2(右ページ)に折り方図の記号の見方、表3(49ページ)に基本形がのっています。御参照下さい。

写真—阿部 恒

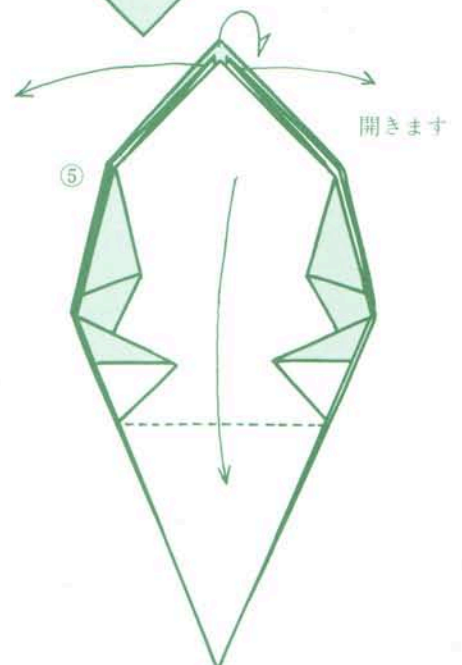
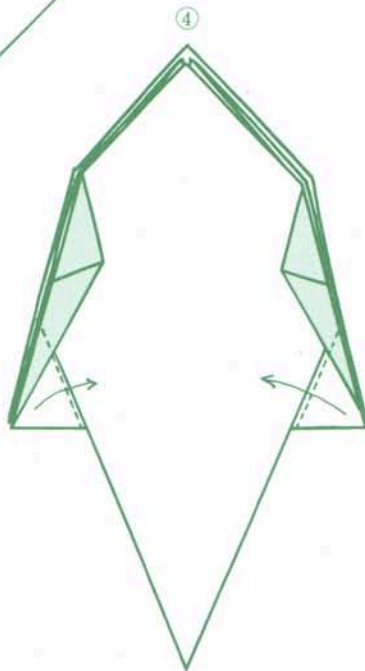
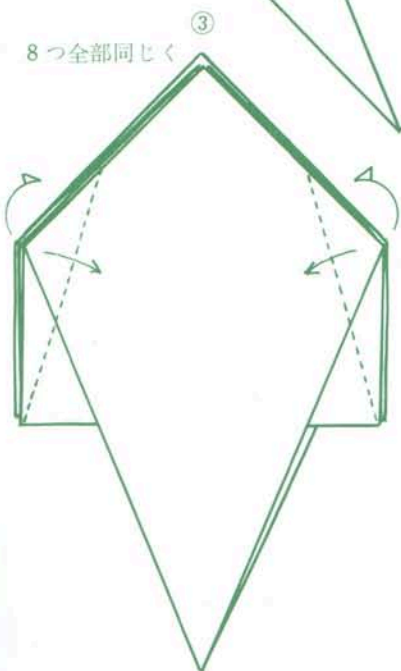
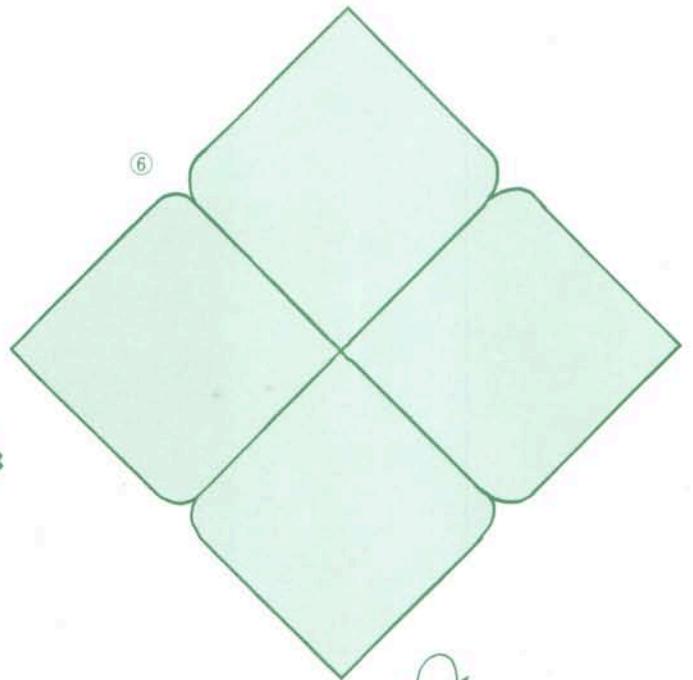
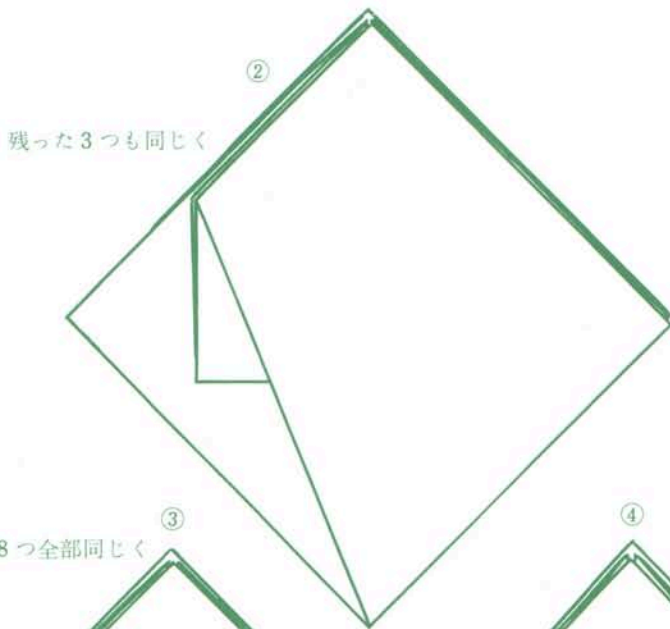
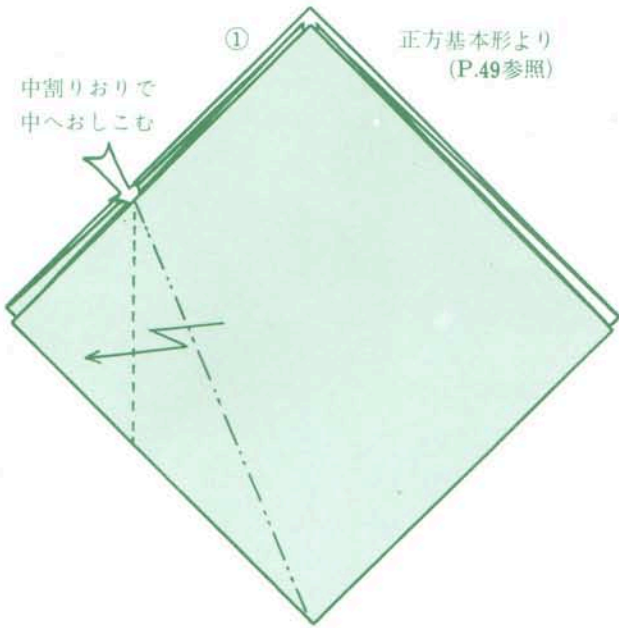
	夏				あ			夏			あ	六		あ
悲	が	あ	こ	い	な		伝	の	悲	今	な	月		じ
し	き	な	ん		た		え	光	し	の	た	°		さ
む	た	た	な	ば	の		た	が	い	あ	の	そ		い
の	ら	は	に		花		い	く	思	な	美	し		へ
は		つ	近	り	こ			る	い	た	し	て		の
		ん	く		と		私	前	を	に	さ	雨		想
あ		と	に	や	ば		の	に	す	恋	は	°		い
な		す	私		°		心		る	し	輝			
た		る	が	さ			を		だ	て	く			
な		ば	い	ん					け	も	ば			
の		か	て								か			
に		り	も								り			





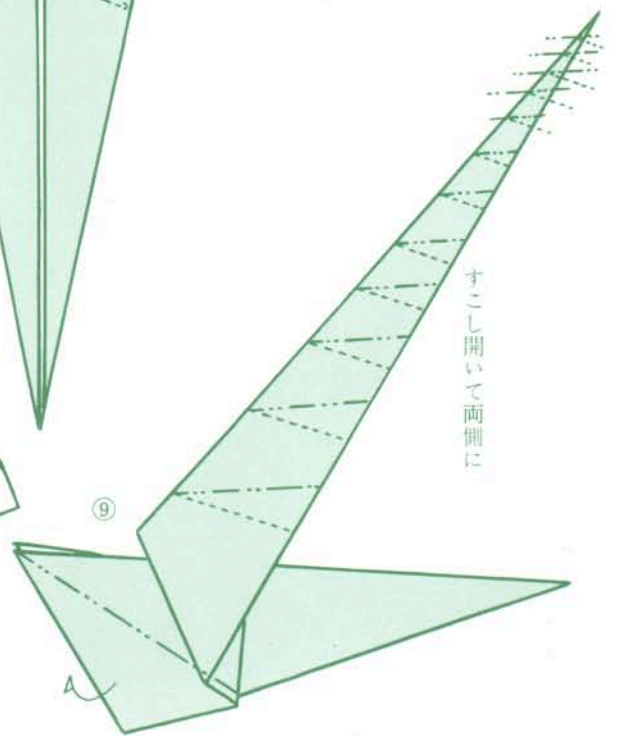
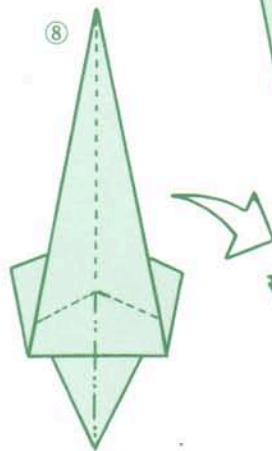
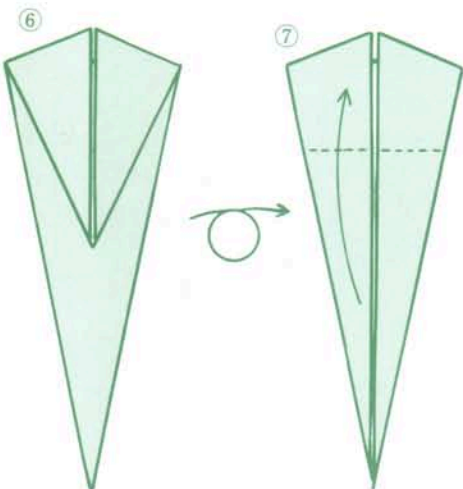
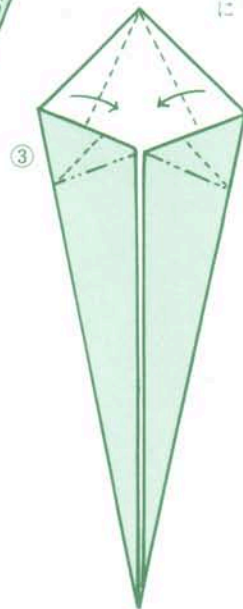
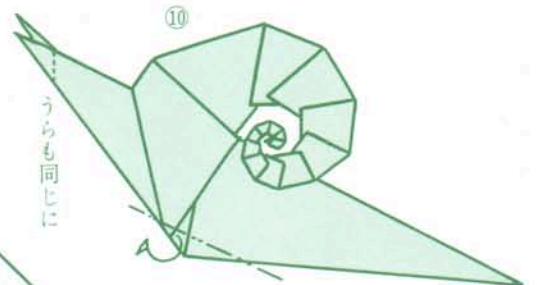
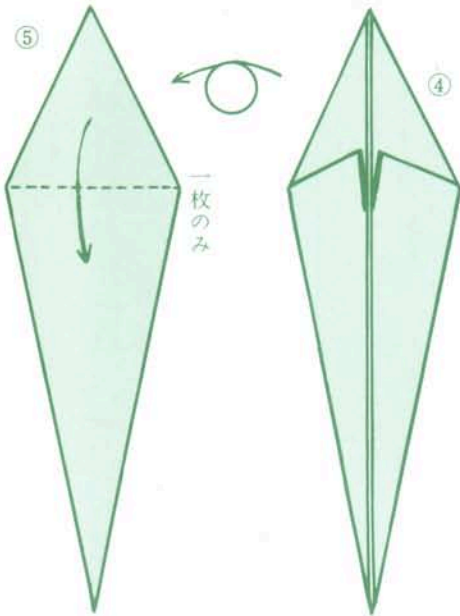
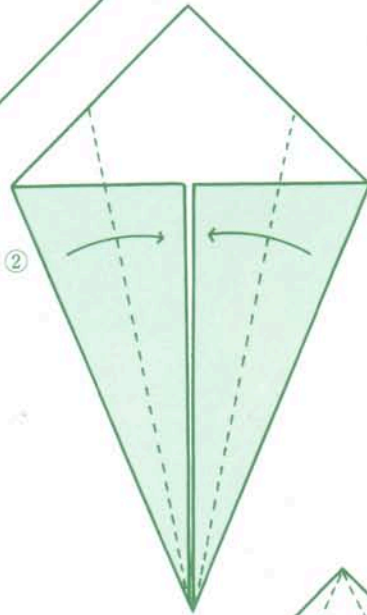
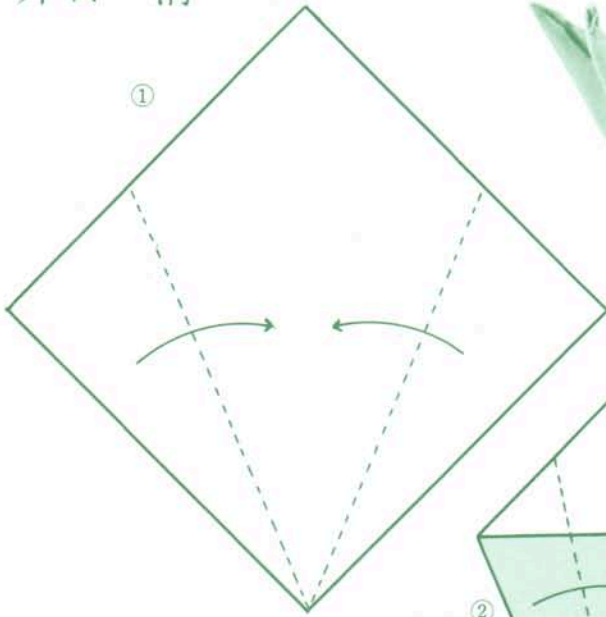
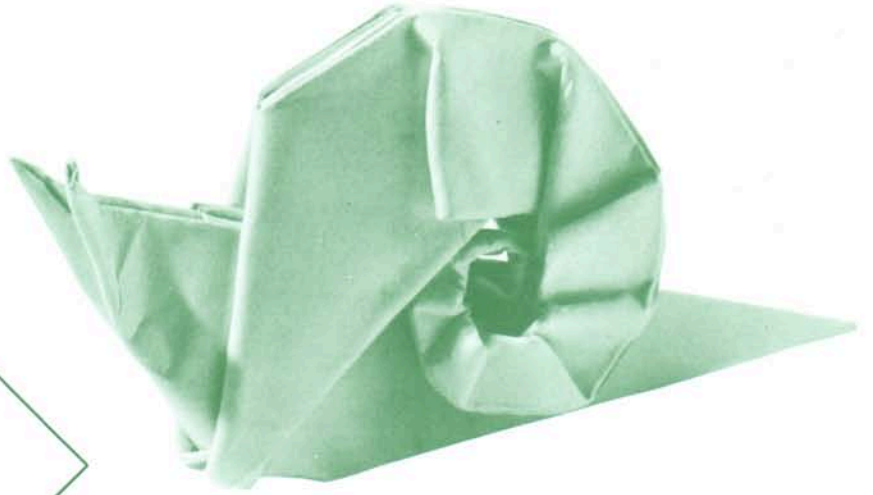
あじさい

井石 清



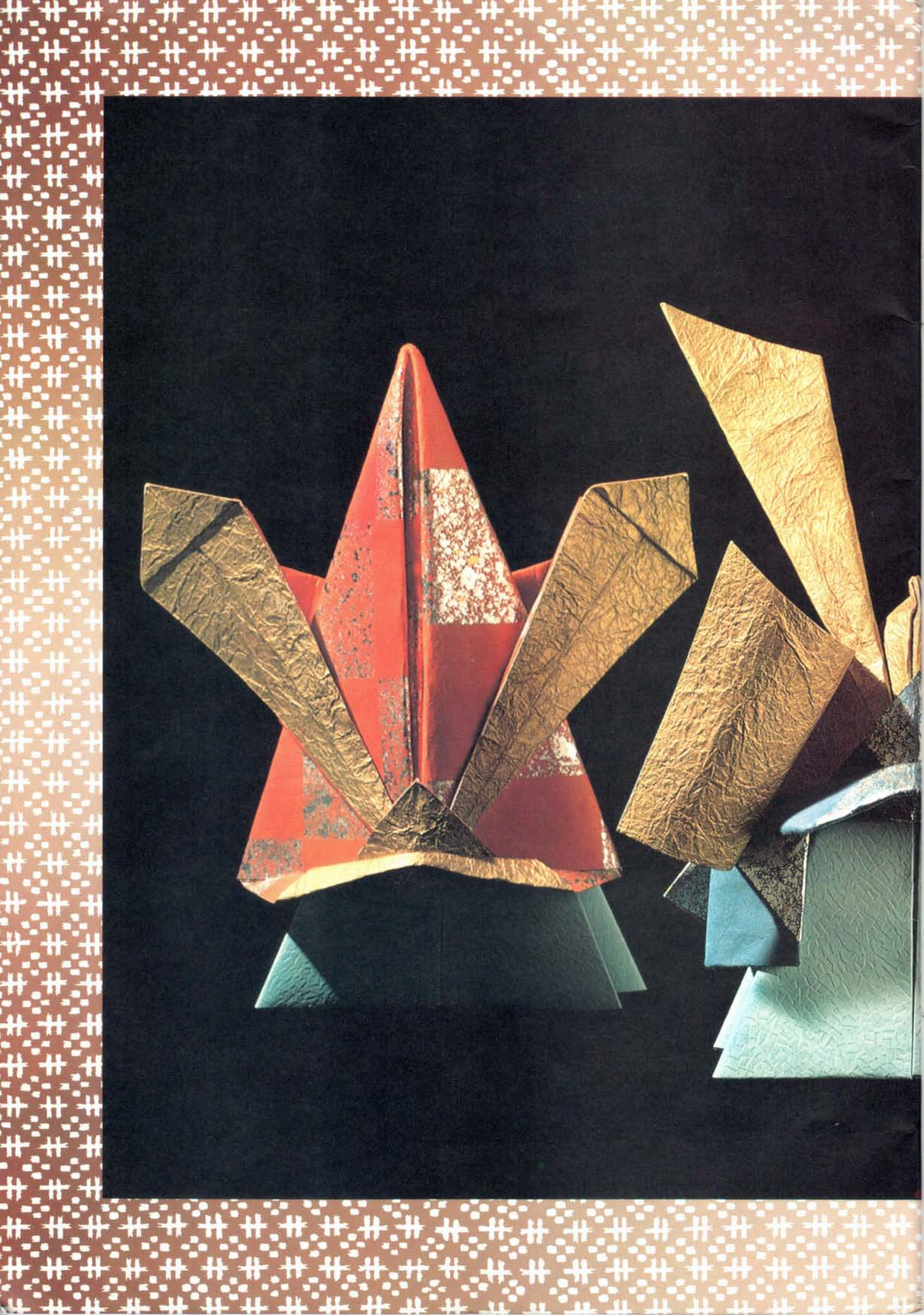
かたつむり

井石 清





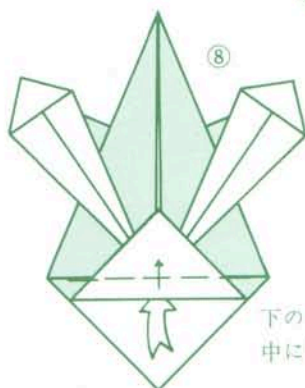
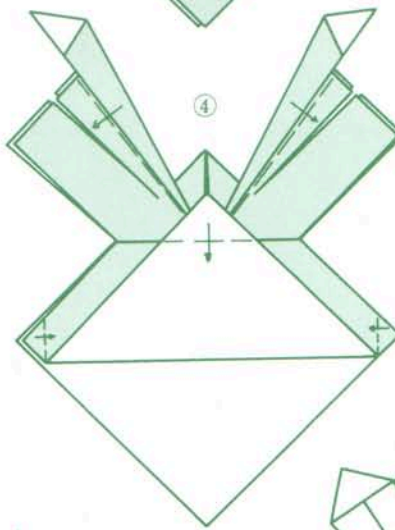
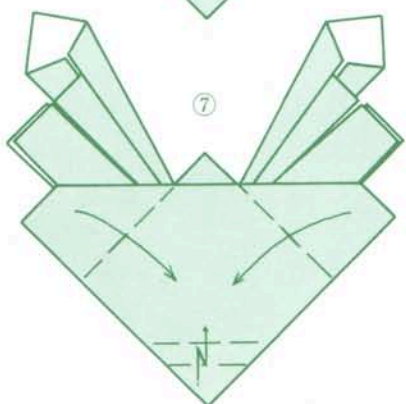
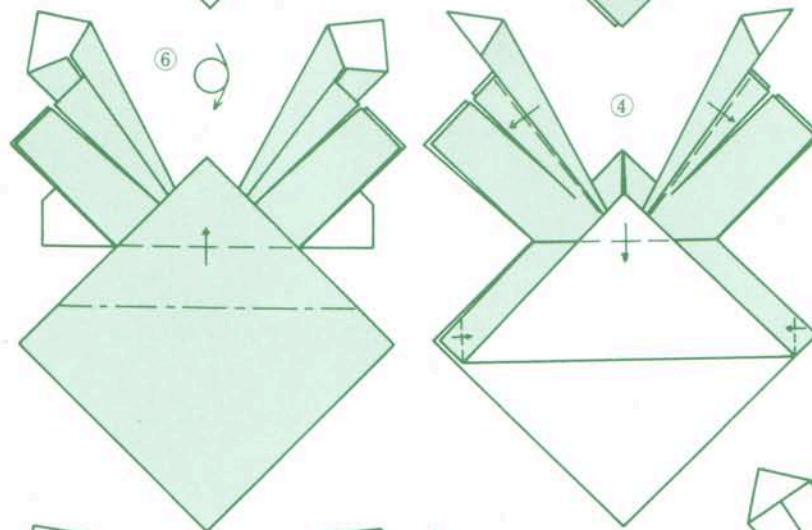
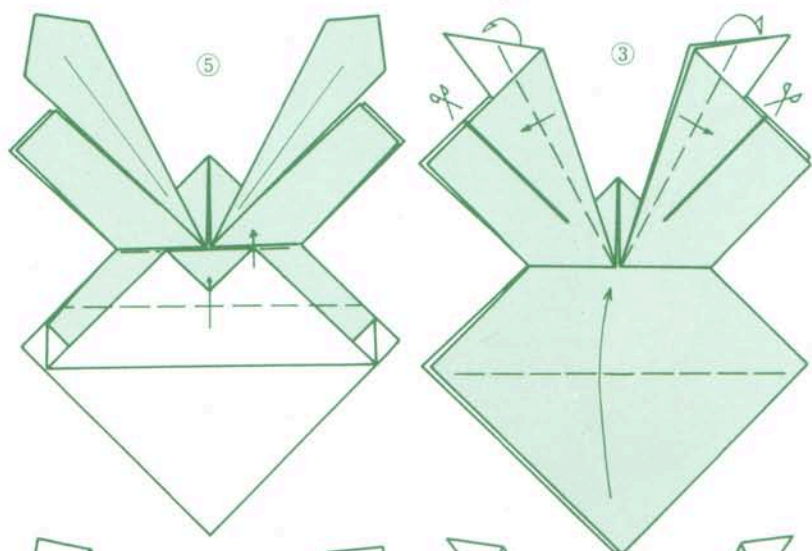
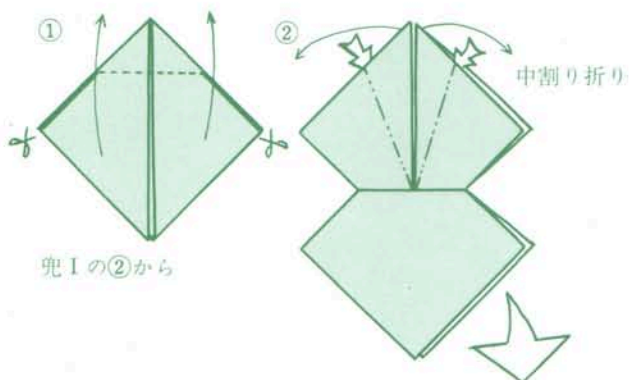
物



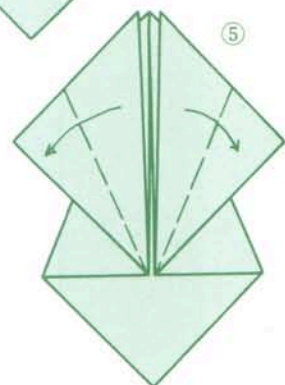
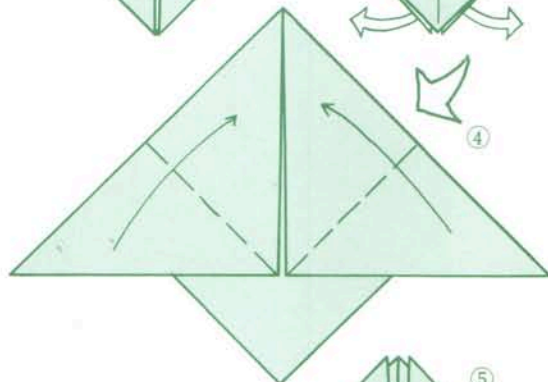
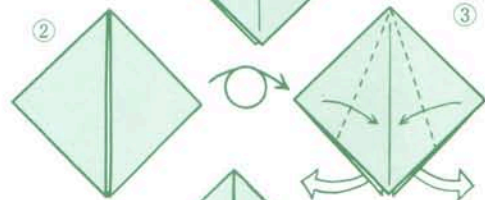
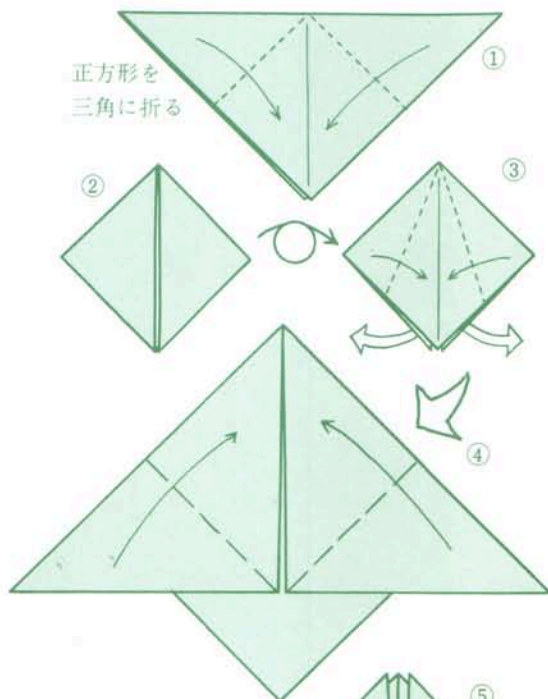
兜 II

この兜は、前ページに写真がのっていません
仕上げは、みなさんがくふうしてみてください。

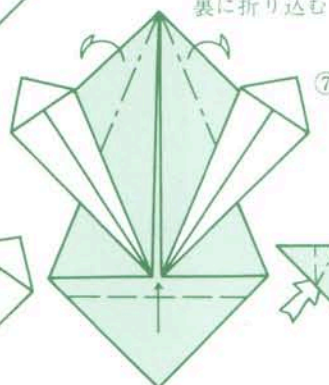
兜 I



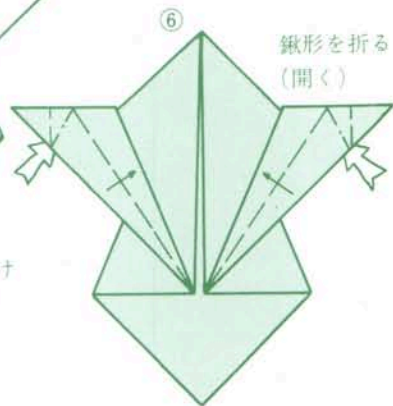
下の1枚は
中に折り込む



裏に折り込む

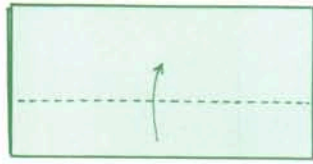
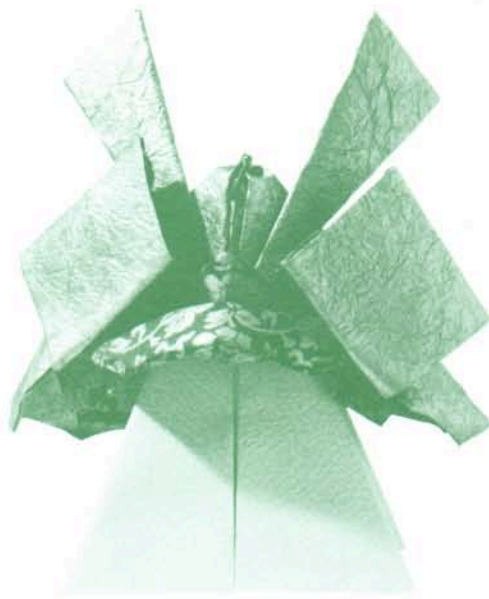


上の1枚だけ
折り上げる



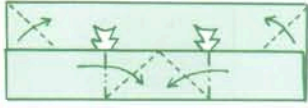
鋸形を折る
(開く)

兜III

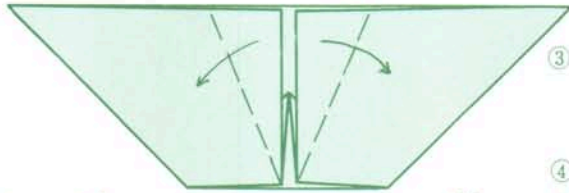


正方形を
長方形に
折る

①

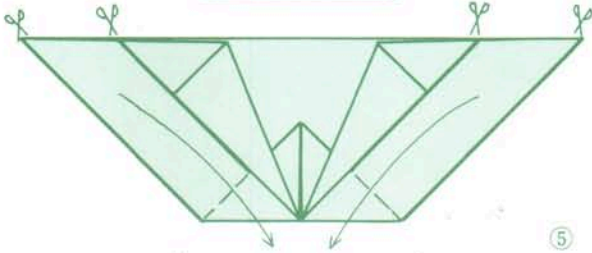


②

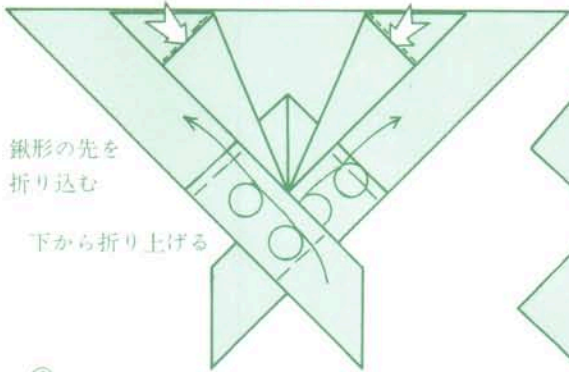


③

④



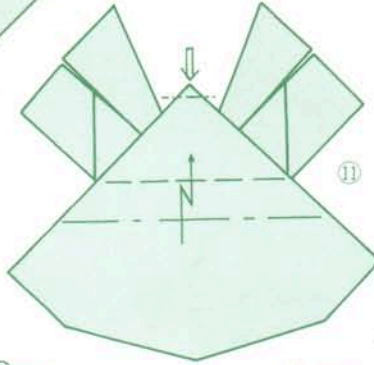
⑤



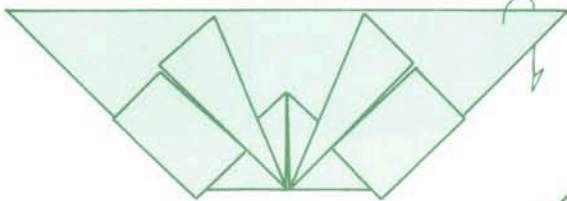
鍬形の先を
折り込む

下から折り上げる

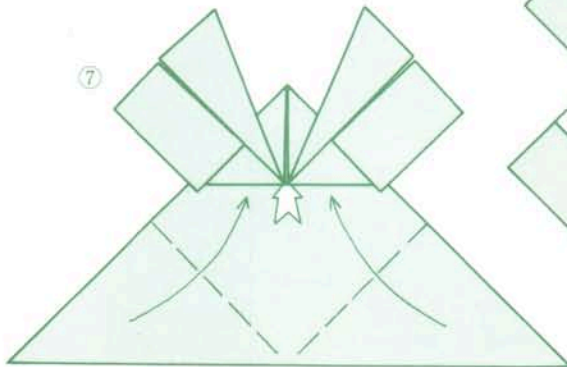
八幡座をつくり
底を折る



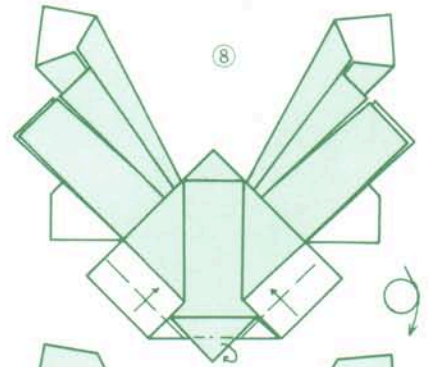
⑥



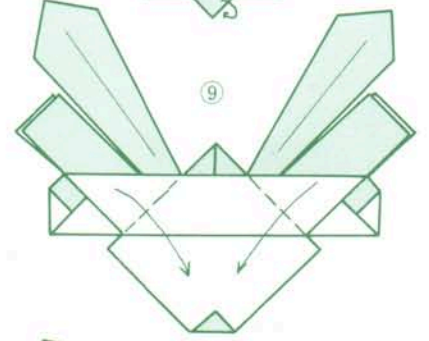
⑦



⑧

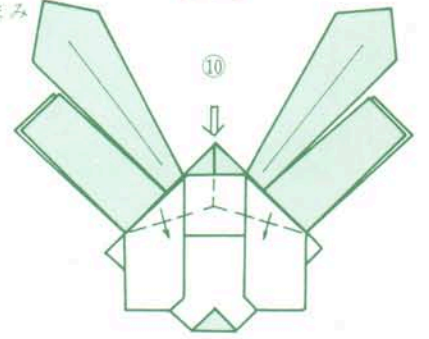


⑧

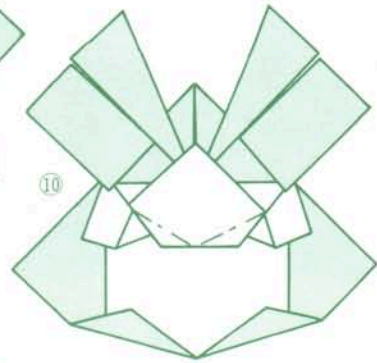


⑨

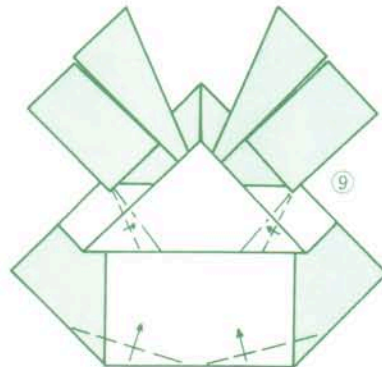
八幡座は先をつまみ
中に押し込む



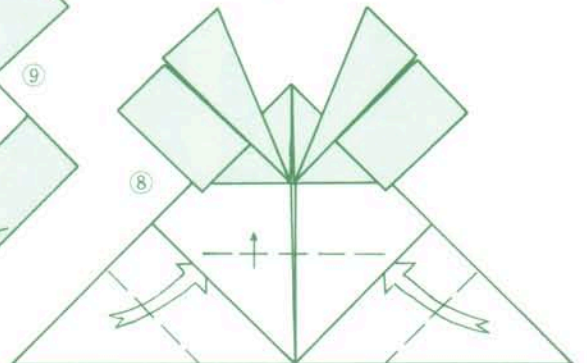
⑩



⑩



⑨



⑧



兜で遊ぼう

柱の疵きずはおとしの

五月五日のせいぐらべ...

(文部省唱歌)

「けんちゃん、遊びましょ」

「ちよつと、まっつて...」

みんな、大きな兜をかぶつて

竹馬にのつたり

チャンバラをしたり、



作家 奥田光雄

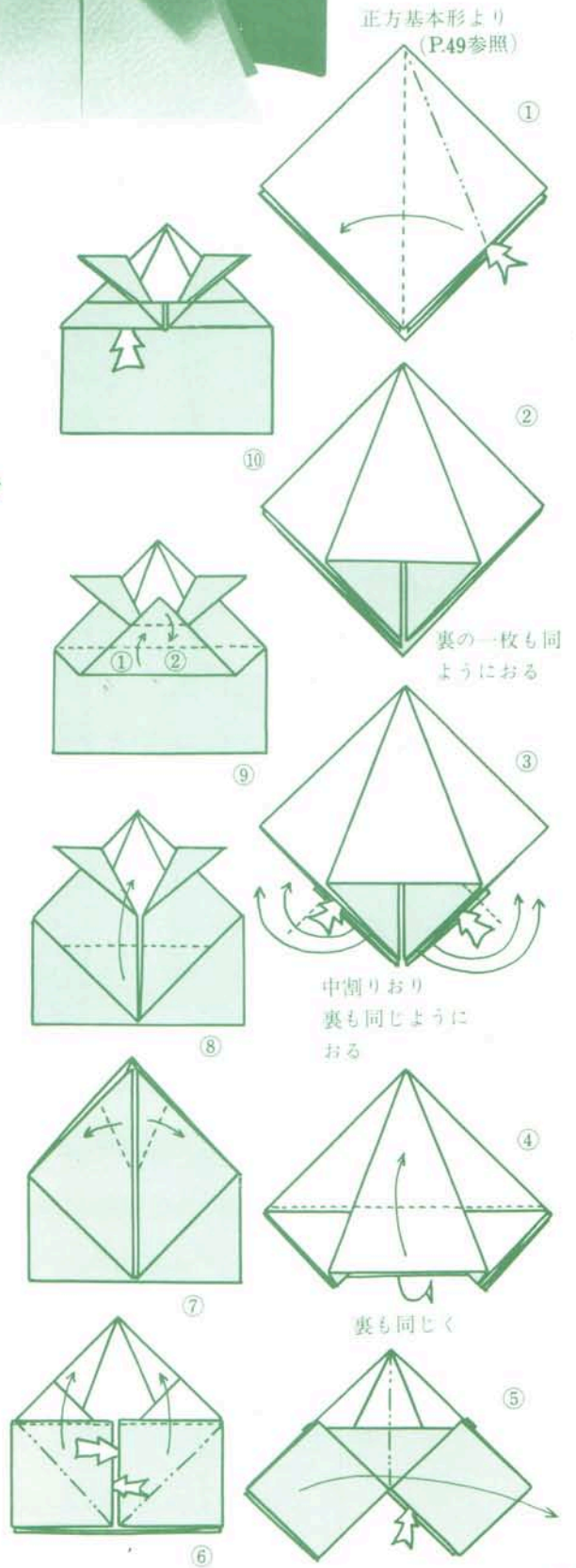
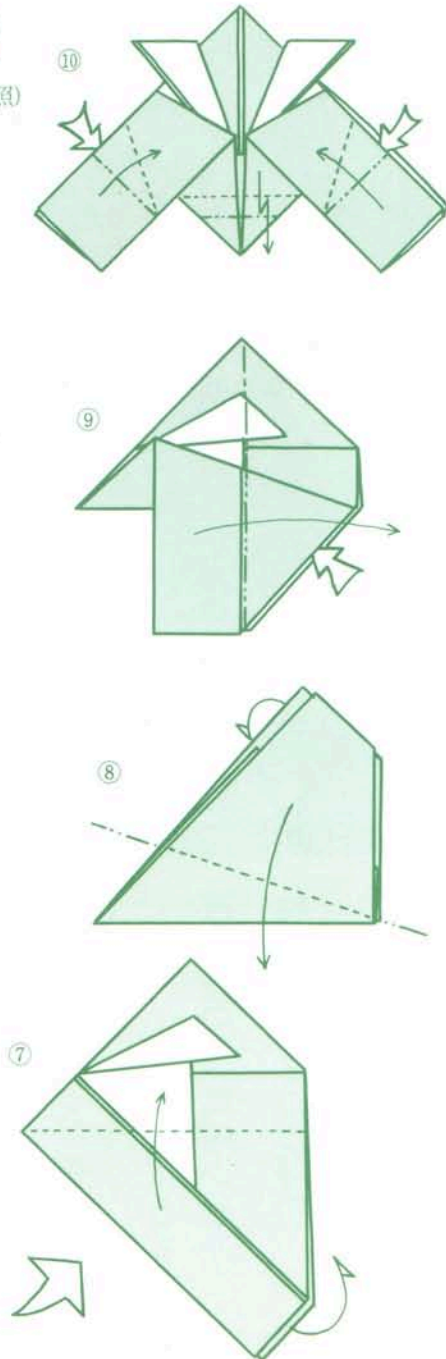
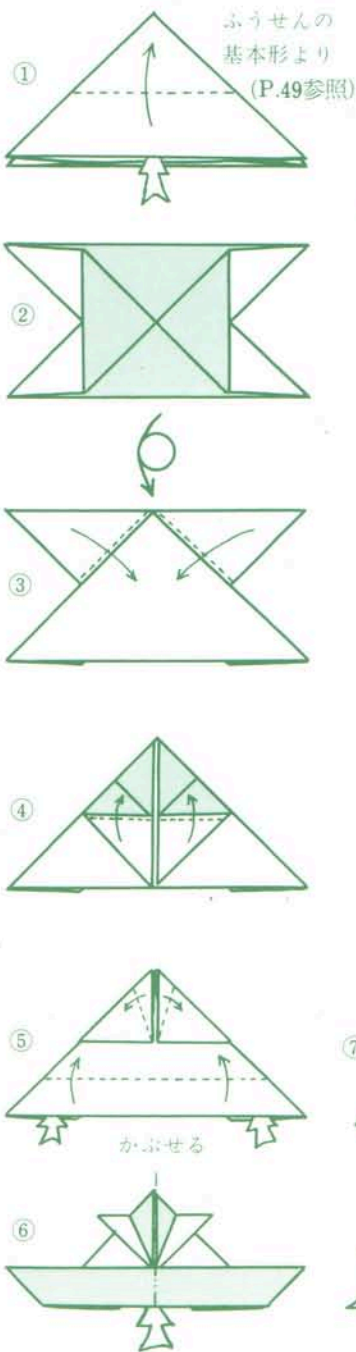
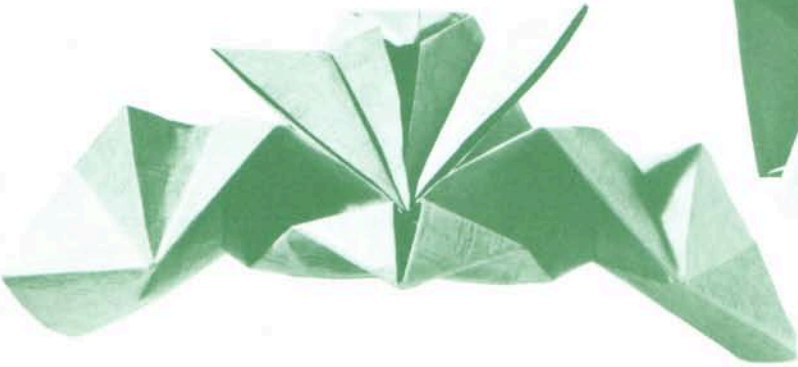
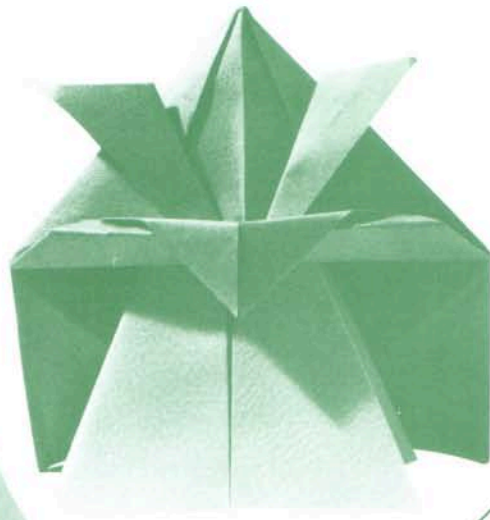
子どもたちのそんな健やかな
成長を祈って、願って
鯉幟こいすずりが今年も
子どもがいる家の空に
夢をふくらませて
泳ぎます

兜

青木光枝

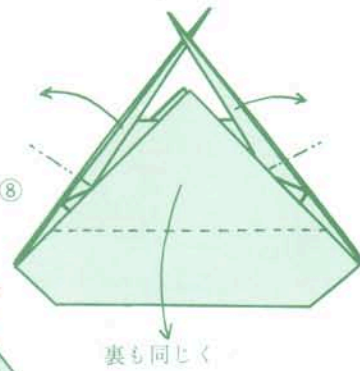
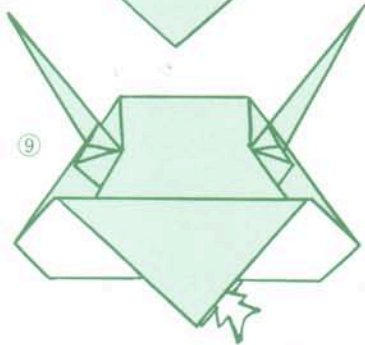
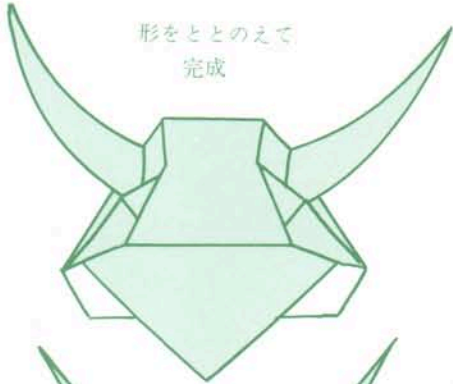
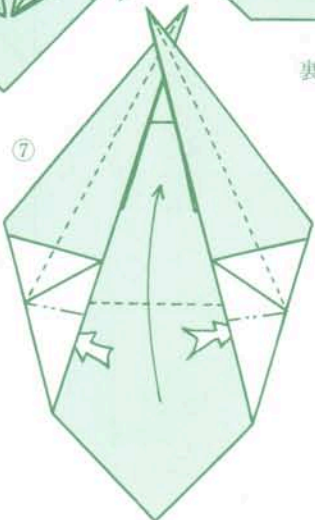
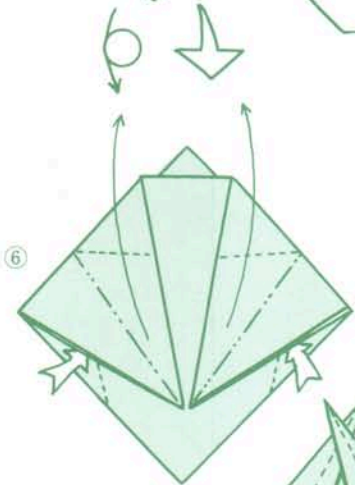
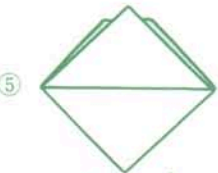
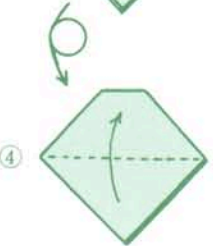
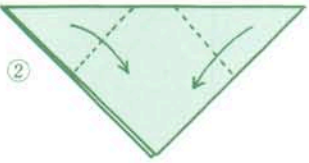
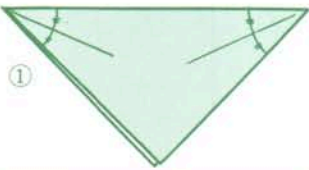
兜

大羽志功



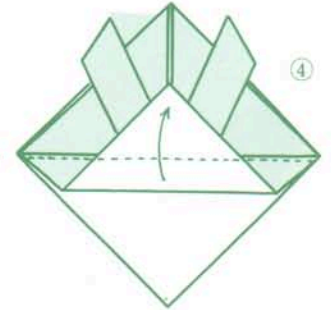
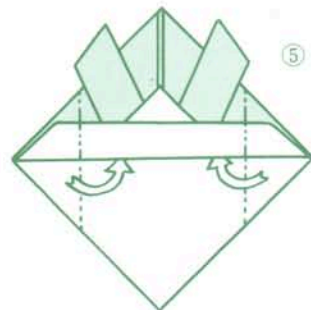
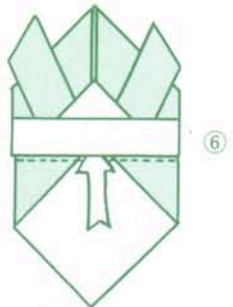
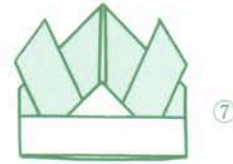
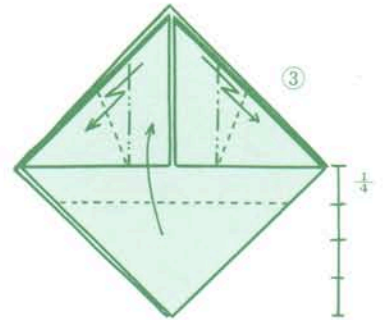
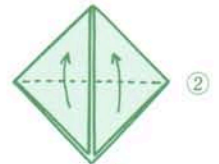
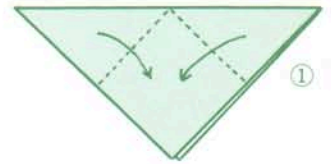
兜

滝本恒夫



兜

中野独王亭



今月の動物 「鳥」

オカメインコ

ヒワコンゴウ

オウム、インコの類はオウム目を形成し、種類は300種を越える。種および亜種の数も826にもおよぶ。コンゴウインコを代表とする大型種、オウム類を代表とする中型種、10cm以内の小型種に分けられる。

ベニコンゴウインコ



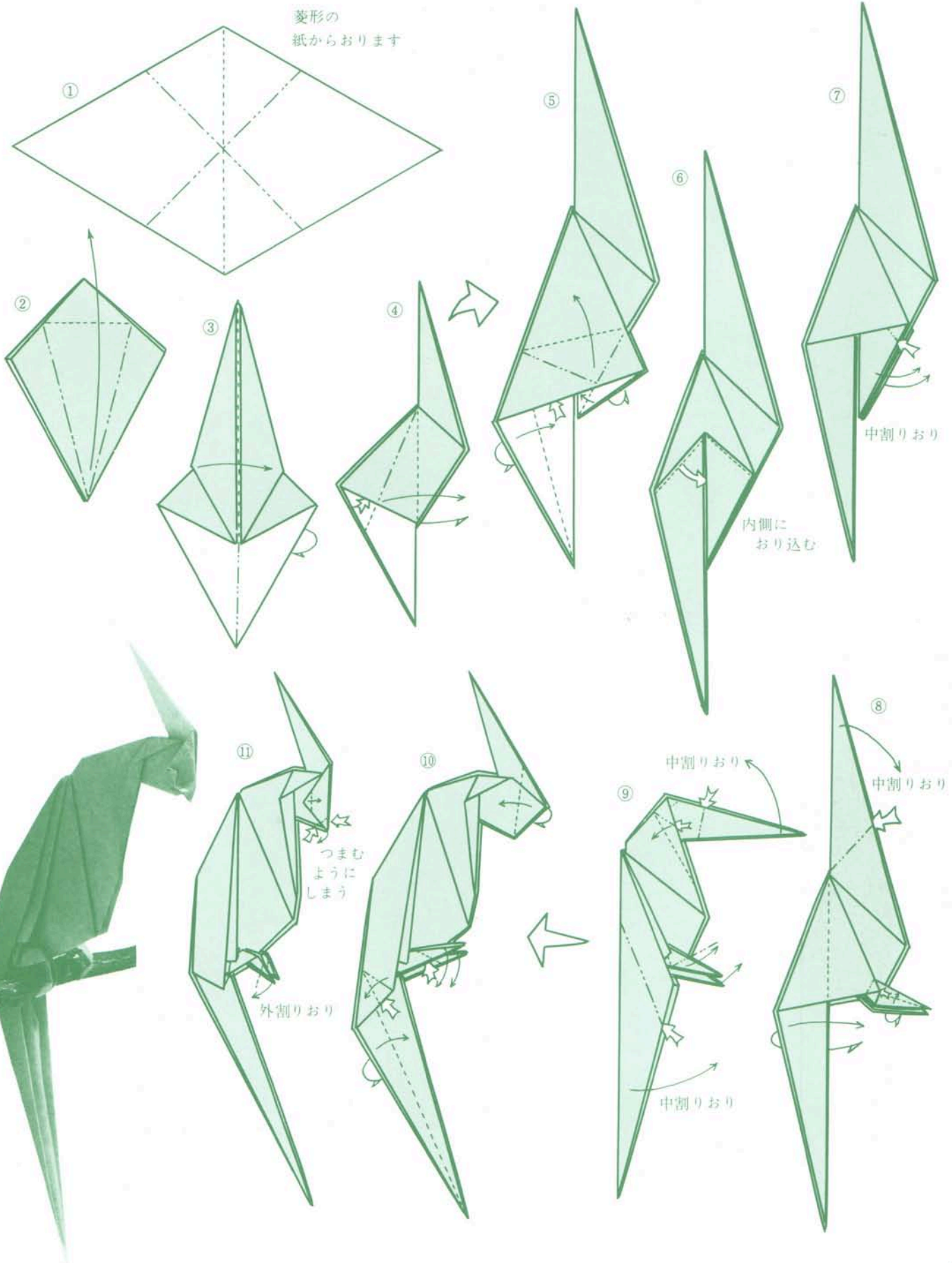


ハチドリ

インコ

中野独王亭

菱形の紙からおります

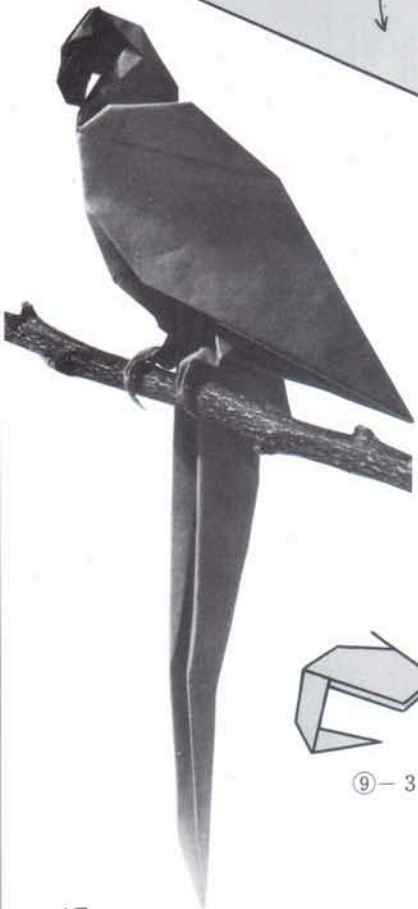
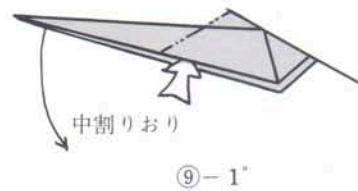
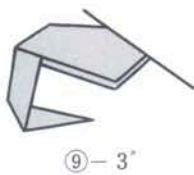
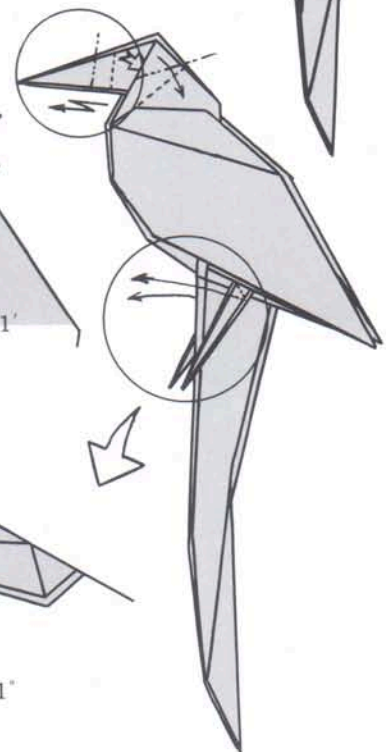
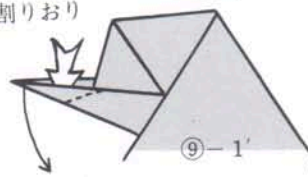
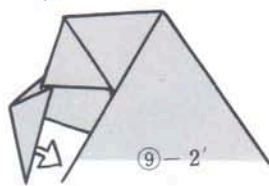
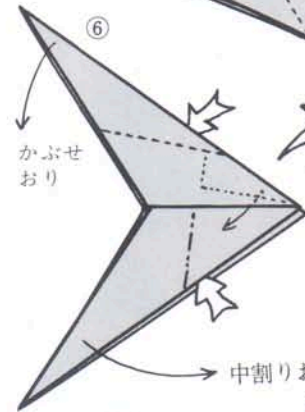
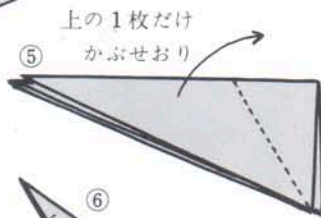
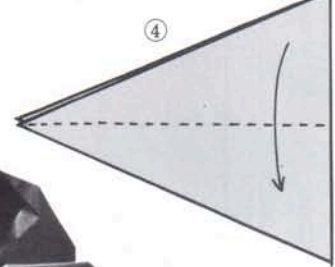
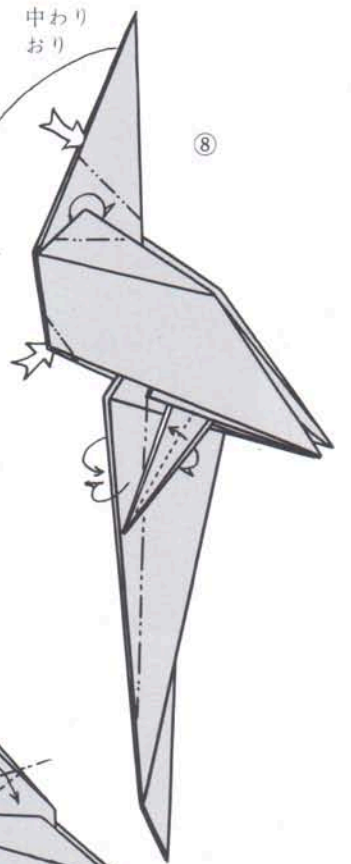
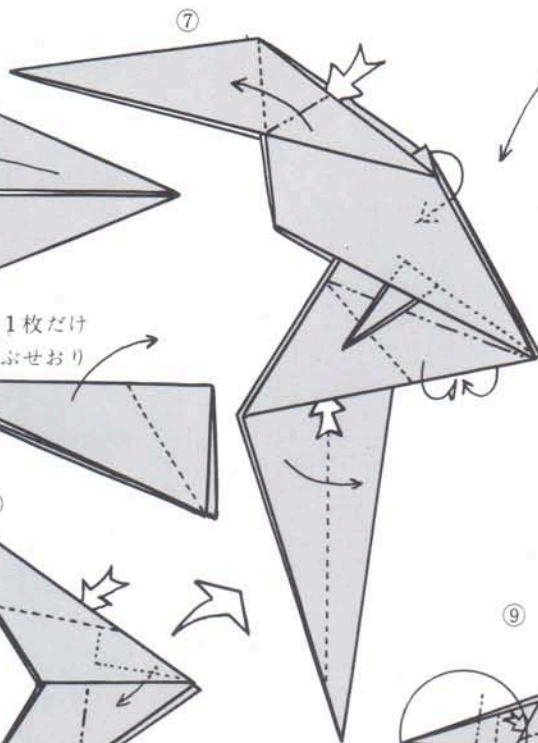
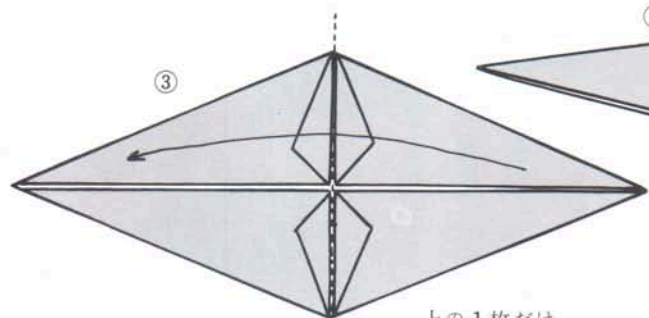
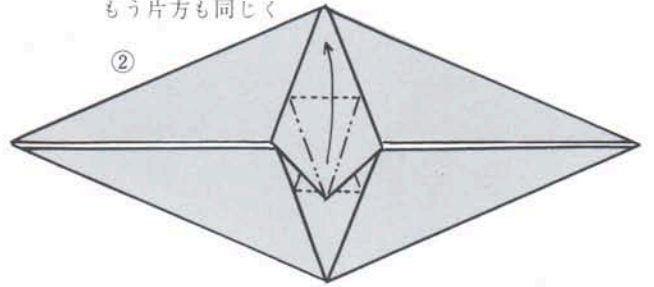
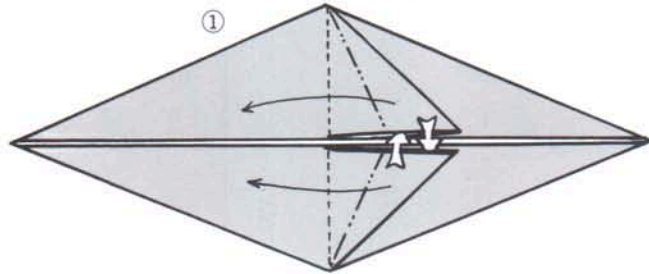


インコ

中野独王亭

魚形基本形Iより
(P.49参照)

もう片方も同じく



折り紙セミナー(V)

福島大学助教授——大橋皓也

鶴の基本折りについて

折り鶴は、最も広く知られている折紙ですが、そのベースになっている折り方が、この基本形です。前号で紹介した正方基本形からの発展としてできる基本形で、この鶴の基本折りからの発展もまた、さまざまです。

正方基本形の角をまくりあげて折る羽根の部分の折り方は、伝承折紙の技法として、最も大きな遺産といっているものです。日本の折紙が、ここまで発展してきたのも、この折り方を発見したおかげだといっているくらいです。この折り方をダイヤ折りということもあります。菱形基本形(DIAMOND BASE)と混同しやすいので、ここでは花卉折りとしておきたいと思います。花卉折りによってできる鋭角の部分を、いろいろに利用することによって、この鶴の基本折りからの無数の発展が可能になるのです。

オリガミツリー No.5、をみていただければわかるように、四つの角が、羽根になり、足になり、耳になり、つのになり、また、目や口にな

ったりしています。

これらを大きくグループに分けますと、まず、鳥のグループができます。欧米では、鶴の基本折りをBIRDBASEとよんでいるくらいですから、鳥を折るには恰好のベースということでしょう。

そして、袋の部分を利用したかごや水さしのグループ、四つの角を四本足としたかめやぞうのグループ、うさぎや金魚のグループ、さらにお面のグループなどです。

もちろん、そのほかにも、いろいろできます。みなさんも、ぜひ、この四つの角(正確には、もう一つ直角の部分がありますから、五つの角になりますが)をどう使ったら、何が、できるかを考えてみてください。

かめのように、二つの角を左右にひっぱってみると、長短のちがいができて、またもとの基本折りとは、別のイメージが、わくかもしれません。

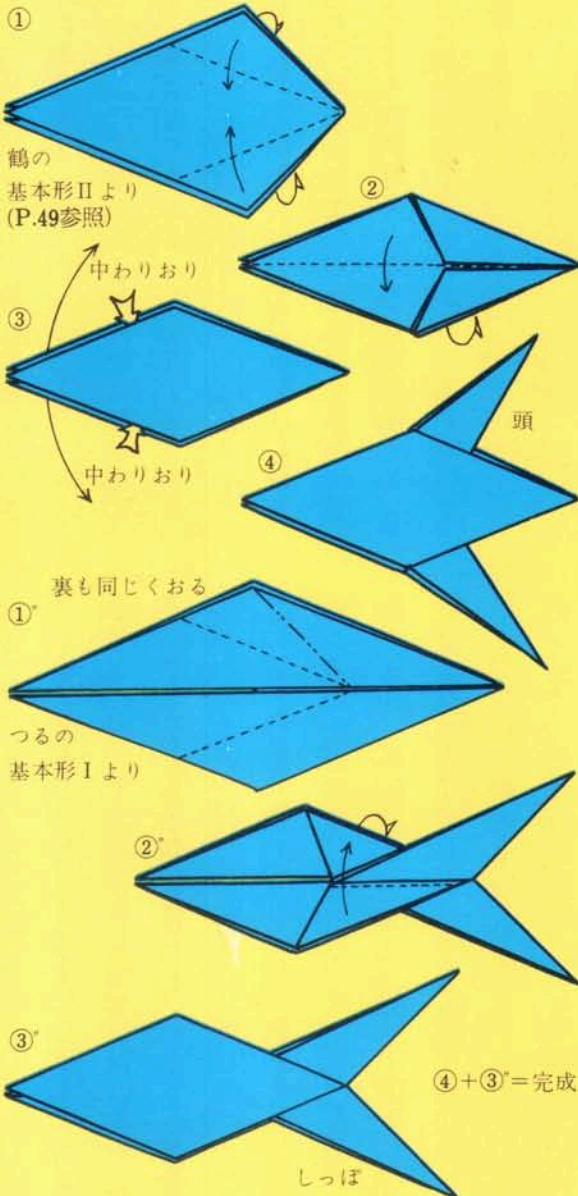
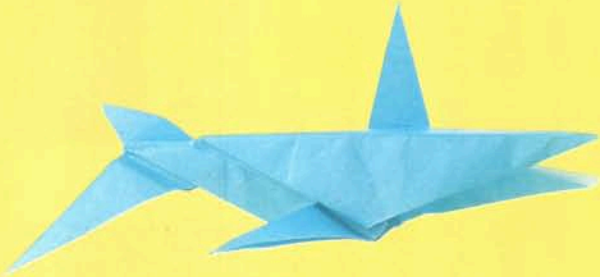
作り方図には、そうした意味から、それぞれ、ちがったパターンものを四つ紹介してみました。今月の課題作品は、この鶴の基本折りからの発展ということにいたします。応募のときは、必ず、基本折りの名称をかき添えてください。

子どもの創作

ジョーズ

安西 功(8才)

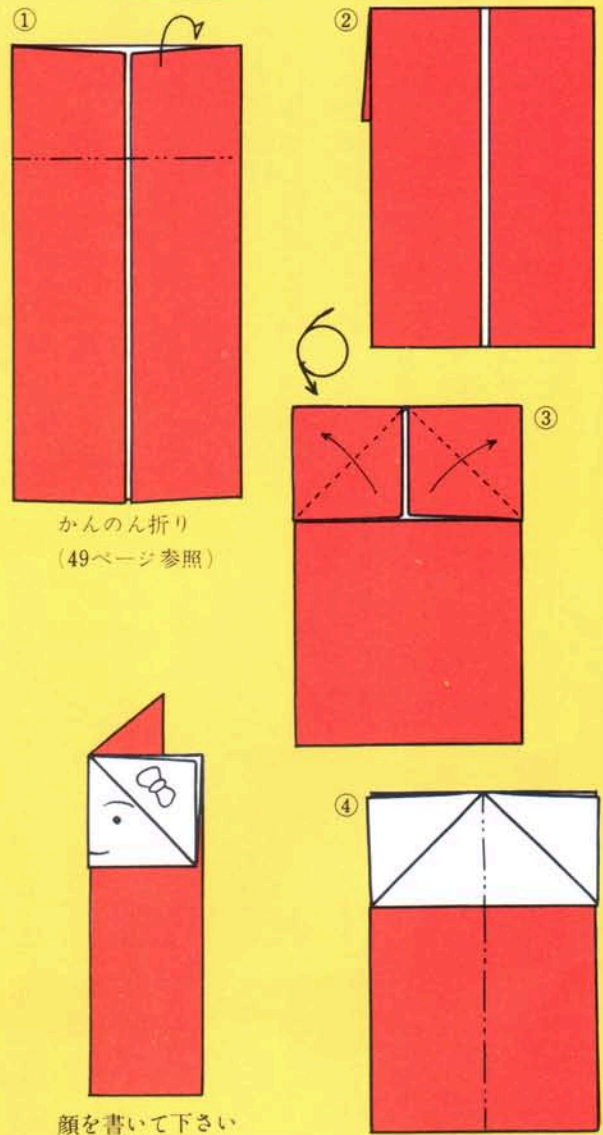
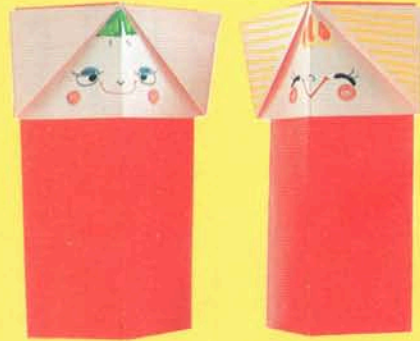
つるの基本折りを二つ重ねてつくったもの。功君からは、すでに数十点の作品が、寄せられています。その中の秀作の一つがこれです。「ジョーズ」の映画をみたのでしょうか。すぐそのイメージを折紙として表現できるのは、見事なものです。功君、がんばれ!



こけし

川田 千鶴子(6才)

かんのん折りからつくる、非常に簡単な作品。顔の部分だけが白くなるのがいい。角度をつけて立たせると、よく安定しいつまでも形がくずれない。こういうあそびの中で、子どもは、構造の基礎を学ぶのでしよう。女の子らしい、かわいい作品です。また、送ってくださいね。



折紙の遊び方、教え方

折紙は、折って楽しむものであることは、いうまでもありませんが、その折り方にも、いろいろあります。そのうちのいくつかを紹介してみたいと思います。これは、遊び方といってもいいし、また教え方といってもいいものです。読者のみなさんの、それぞれの立場で、利用していただけたらと思います。

●形みつけ折り

これは、学習院の坪内先生（日本折紙協会会員）らが、すでに、相当前から行っている方法で、小学校低学年や幼稚園の児童たちには、きわめてよい方法だと思っています。まず、折紙を持ったら眼を閉じさせて、無目的に3〜4回紙を折らせます。これは、意図的に何かを折るというのではなく、意図的に、何かに折るといって折らせた方がいいのです。そうしてから、眼をあけて、でたらめに折った紙を、よく見させます。「さあ、何かにみえないか、鳥さんはいないかな？ ぞうさんはいないかな？」といった問いかけによって、

そのでたらめな折りから、何かの形をさがさせてみるのです。

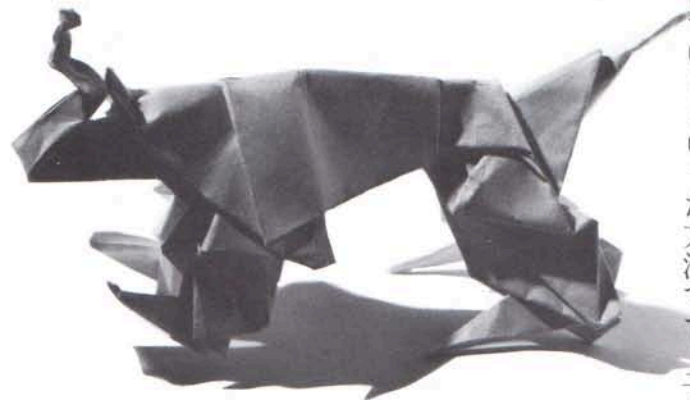
子どもほど、そうしたイメージは豊かなものです。「おばけにみえるぞ」「シュークリームだ！」といった声が、必ずかえってきます。そうしたら、クレヨンなどで、眼や口をかき入れたり、お皿をかきたしたりして仕上げるわけです。直観的想像力を伸ばす方法として、どんな家庭の中で、とりあげてもいいのではないのでしょうか。



●イメージ折り

桃谷さん（日本折紙協会理事）の著者「折り紙、イメージと創作」にも、イメージから発展させる折紙の創作法がのべられています。要は、折りの技法にとらわれないでイメージに合わせて、折っていく方法です。これは、創作折紙にとって、最も重要なプロ

セスです。まず、象なら象を折りたいとします。その形をしっかりとイメージします。インド象なのか、アフリカ象なのか、親の象か、それとも子どもの象かなど。そして、折紙を、そのイメージに合わせて、折り線がきたなくなっても、多少紙がやぶれても、強引に折っていくのです。したがって、この方法で折る場合、紙はじょうぶなものほど望ましいことになります。さて、あるていど最初のイメージに近い形のものできたとします。それをもう一度開いて、折り線を整理していくのです。そして、徐々に折り方を単純化していくと同時に、象なら象の形を美しいフォルムに仕上げていくといった方法です。子供の



場合など、初めから一枚の紙ではさみも入れずに折ることは、なかなかむずかしいと思いますので、何枚かの複合折りや、はさみ、のりも自由に使ったいいことにすれば、けっこう複雑な形のもつくりやすいです。

● ベースから発展折り

これは、最もオーソドックスな方法だと思いますが、あるベースをあたえておいて、それから、自由に創作をさせるといった方法です。例えば、二そう舟のベースを一緒に折ります。そして、「一そう舟のできた段階で、「さあ、次に何ができるかな」といって、あとは子供に考えさせるわけです。オリガミツリも、そういう考え方から生まれたものです。ですから、ツリーに紹介した作品だけをただ模倣的に折るだけでは、意味ありません。そのベースをしっかりと覚えたら、その発展は無数にあるのですから、それを考えてほしいのです。私は、学生にあるベースをあたえて、あとは十人以上創作をさせることにしています。なかには、二十点も三十点も創作するものもあります。

もちろん、いい作品の数は少ないですが、

たくさん考えるところに、創作の意味がありますから、うまいへたにとらわれず、たくさん考えさせることに重点をおいています。

● あやとり折紙

これは、協会の事務局長をしている阿部さんの考案によるもので、阿部さんが、息子さんと一緒に折紙を楽しんでいるうちに、発見した方法だときいています。遊び方は、親子でも、友だちでも、だれでもいいですが、二人で交互に折紙を折っていくといったものです。まず、初めの人から簡単なベースを折ります。次に、相手にそれをわたし、そのベースをもとに、次の折りを一回やります。その一回とは、対称の折り方や簡単なベースなら、それも一回とします。こうして、何回か二人の間を往復するうちに、だんだん何かの形ができてきます。二人の思考による共同製作といったらいでしょうか。私も、うちの大学の学生にこの方法で製作をやらせてみました。が、思わぬ傑作が、いくつか生まれました。一人だけの決ったパターンをお互いにこわしながら、新しい方法を見つけだすからではないでしょうか。

● 交換折り

これも前掲の桃谷さんの発想になるのですが、幼児の段階に有効な方法だと思います。二人で同時に同じものを折るのですが、時に折りの途中で、作品を交換するのです。つまり、幼児は、まだ指先の機能が未発達ですから、折りがうまくできません。それを、教える人がカバーしていくわけです。できあがりもすつきりします。また、子供も、楽しみながら、折りの方法、技術を学んでいくことができます。

小さいお子さんをお持ちの方など、ぜひやってみてください。

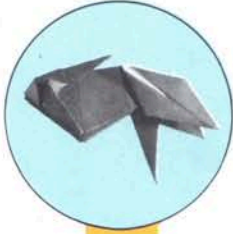
● 戻し折り

これは、初心者向きの方法といっているのですが、仕上がった作品を、ほどいてしまつてから、もう一度、もとの形に再現させてみる方法です。ベースを学ぶのによい方法です。あまりむずかしいものは、抵抗があつて再現のおもしろさが半減してしまいますので、比較的単純なものからはじめるのがよいでしょう。

うさぎ



金魚



兜



ねこ



さかな



えび



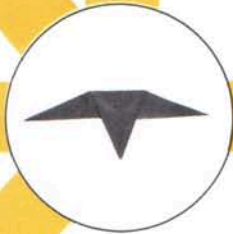
舟



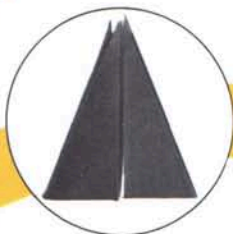
カンガルー



かもめ



飾り



はばたくコンドル



とんぼ



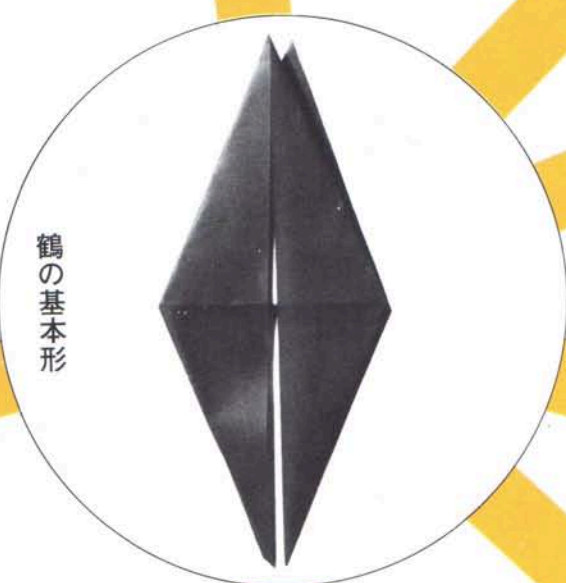
つばめ



鶴



鶴の基本形



老人



かも



こうのとり



はと



にわとり



からす



オリガミツリー No.5

● は折り方を参照して下さい

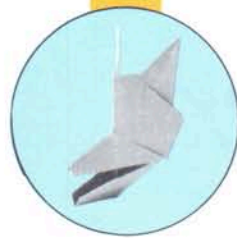
水さし



かご



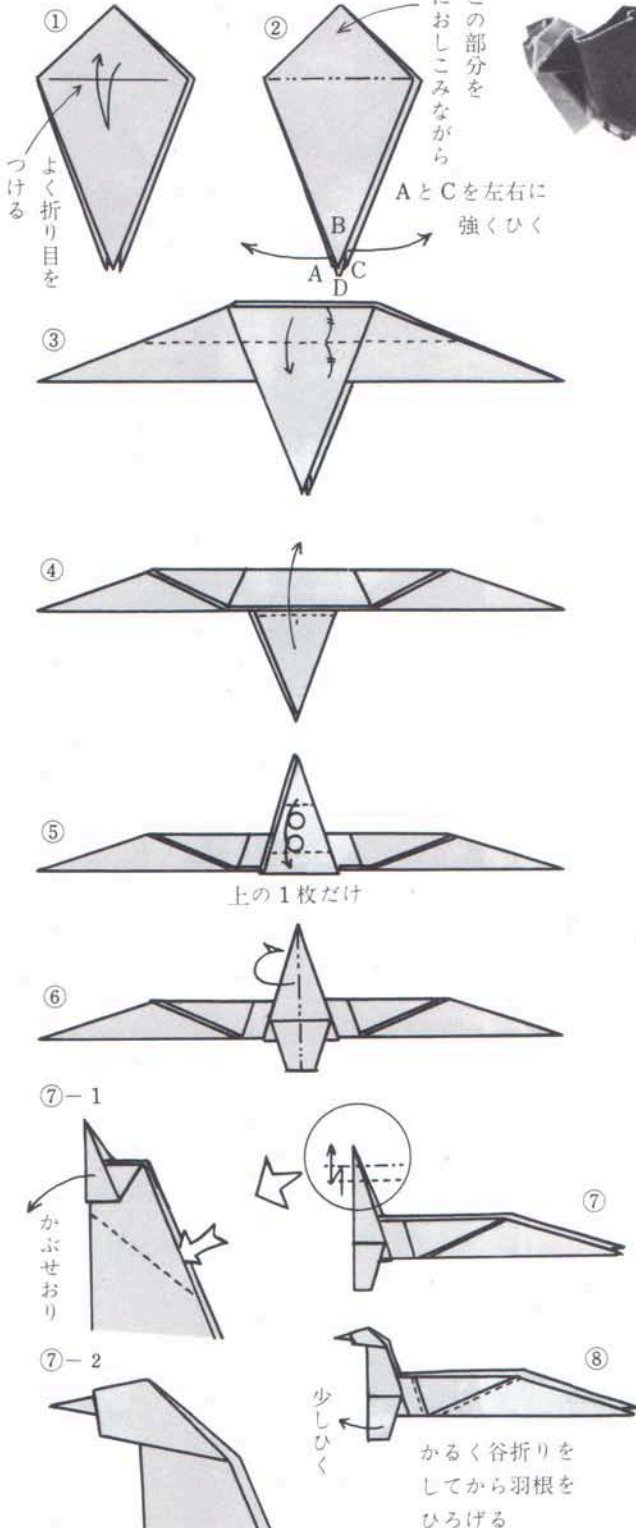
ドラゴン



かもめ

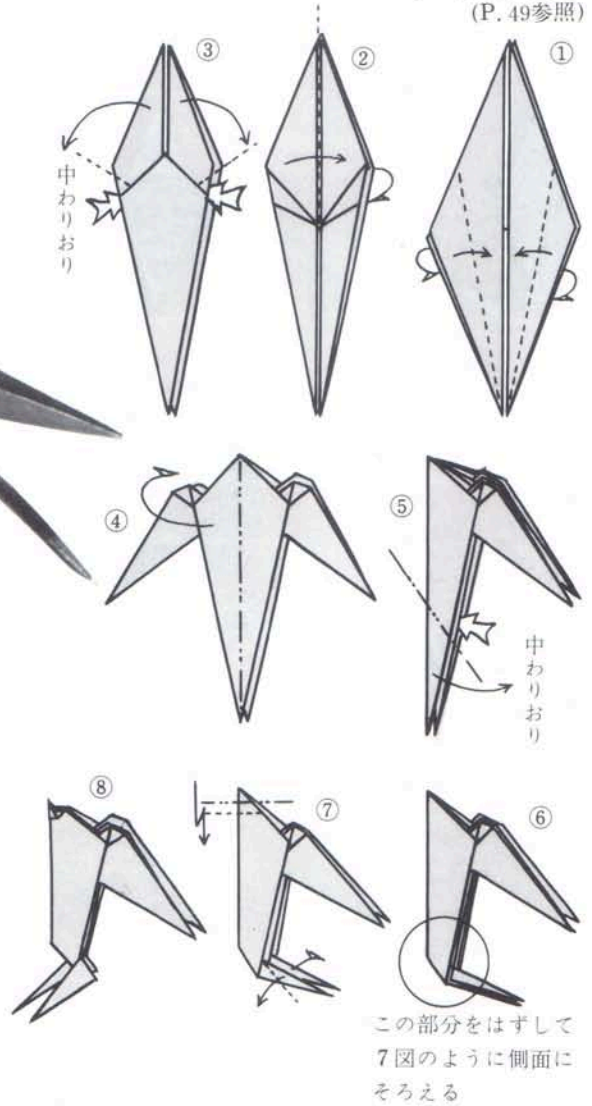


つるの基本形IIより
(P. 49参照)



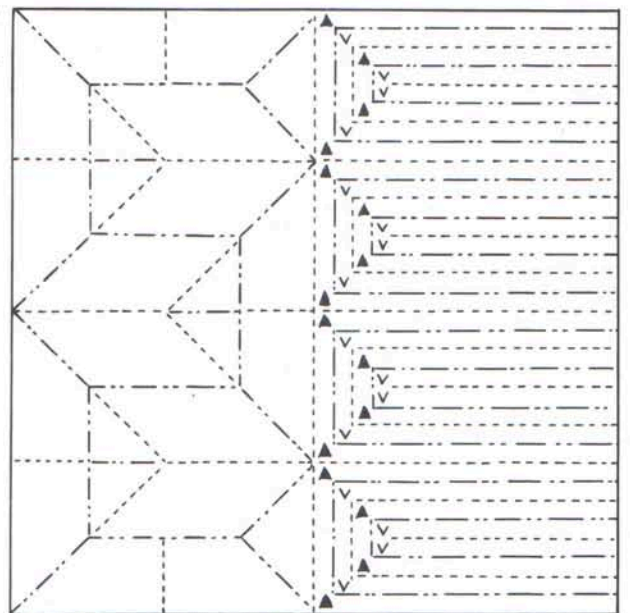
つばめ

つるの基本形Iより
(P. 49参照)



ブルー・レン

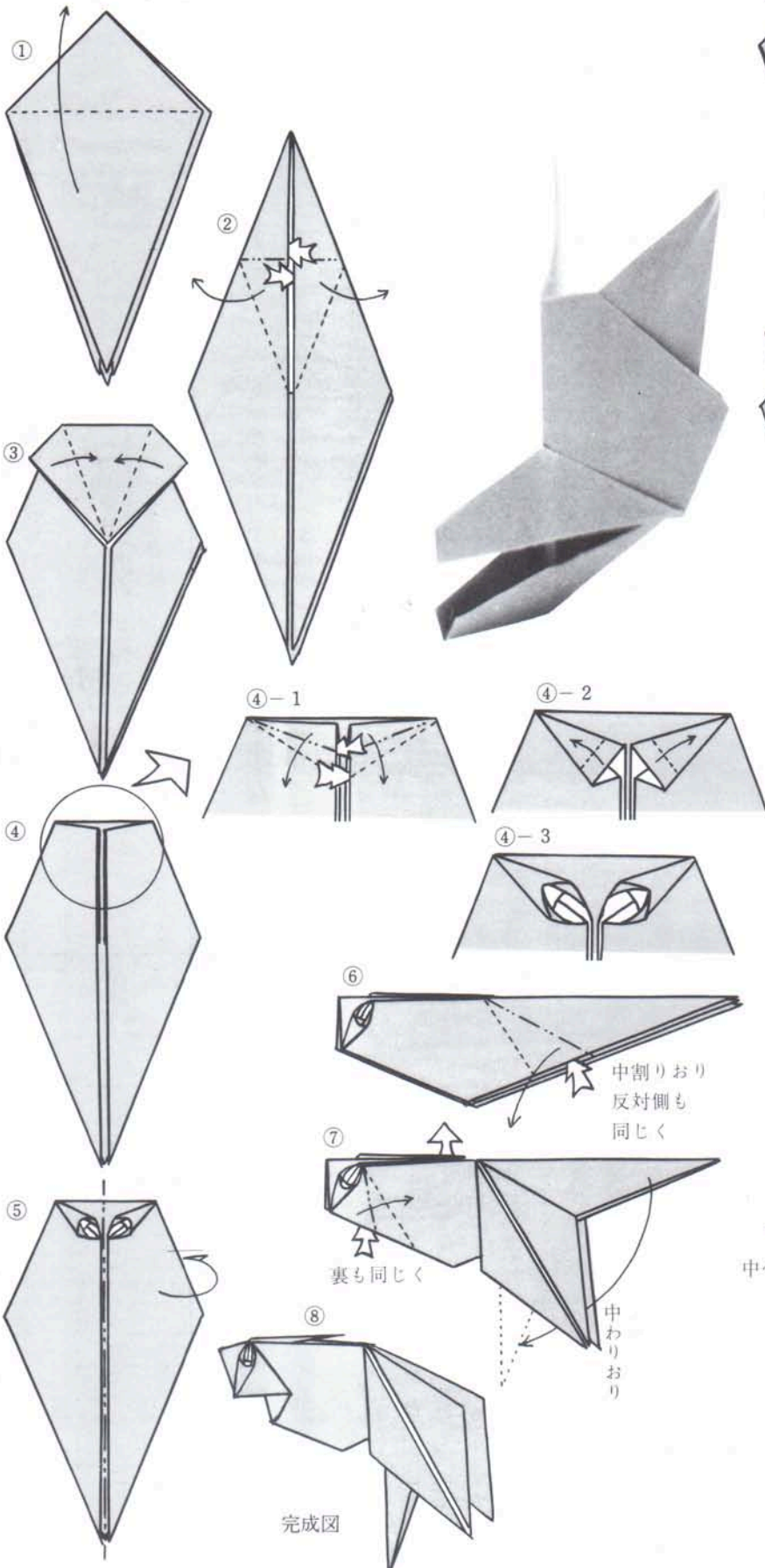
中野独王亭



これは表紙のブルー・レンの展開図です。
折り方は複雑ですので省略しました。
自信のある方は、この図をごらんになって
挑戦なさっては？……

金魚

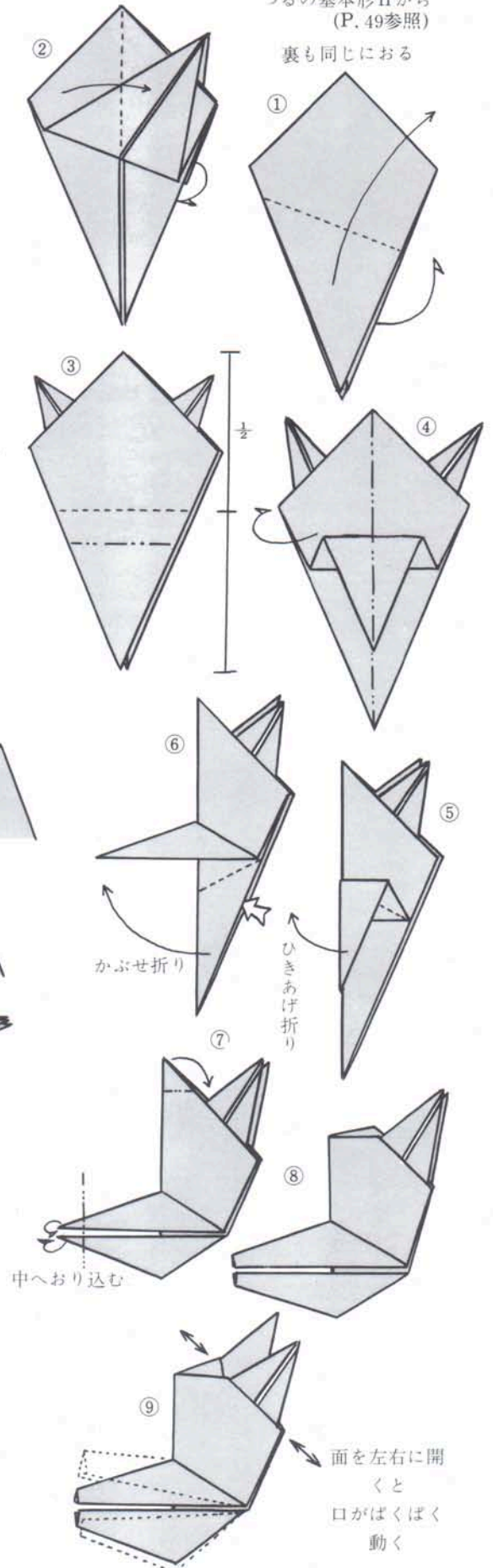
つるの基本形IIより
(P. 49参照)



きつね

つるの基本形IIから
(P. 49参照)

裏も同じにおる



長ぐつの中のおひめさま

文〓立原えりか

ペーパークラフト〓寺田松雄

折紙〓石井英子

ことしも梅雨の季節になって、もう五日のあいだ、音もなく雨が降りつづいています。

毎日外にて働かなければならない大人たちや、小さい子供も持っているお母さんたちは、うんざりしていましたけれど、男の子は雨の日が好きでした。買ってもらったばかりの、真白い長ぐつがはけるからです。長ぐつで、水たまりをぼしやぼしやと歩くと、どこか知らない、別のくいの道を進んで行くような気分になりましたし、はてしなく雨つぶがおちてくるのを見てると、いつもとはちがうくへ来たようでした。

「よかった……。今日も長ぐつはいて行かれる」
その朝も、男の子はよろこんで、長ぐつに足をつつこもうとしました。

とたんに、かわいい声がかきこえたのです。

「やめてちょうだい。つぶれてしまうわ」

男の子は、目を丸くしました。それから、長ぐつの中をのぞきこみました。

声は、たしかに長ぐつの中からきこえてきたのです。
右のくつは、からっぽでした。

「どうぞ、そっとしておいてくださいな」
すんだ、かわいい声が、またさけびました。左のくつの中からです。
「ぼくの長ぐつの中に、だれがいるんだ……」

男の子は、胸をどきどきさせながら、左のくつを持ちあげました。

中には、豆つぶほどのあかりが、ほんのりとともっています。

「だれがいるの？」





男の子は、くつの中に、ちいさいちいさい女の
人が、立っているのをみつけました。はだかで、
はだしてす。ぬれそぼったかみに、金の冠をのせ
ています。

「こびとのおひめさまだ！」

ばつと、目をかがやかせるあいだに、女の人は
くつのつまさきに、かくれてしまいました。

「どうして、ぼくの長ぐつの中になんか入ったの？」

男の子は、そつとたずねました。

「着るものも、体も、すっかりぬれてしまったの
よ。ずいぶん長い雨ですものね。つかれてもいる

声をひそめ
てきくと、あの
声がかたえました。

「わたしよ。でも、
つかまえたりしないでね」

し……。おねがいだから、しばらくここで休ませて」
女の人は、かみの毛を金のくしてとかしながら
ほつとためいきをつきました。

「お礼に、このくしをあげる。あなたには小さく
ぎて役にたたないかもしれないけど、ほかには何
もないわ」

「お礼なんかいらぬ。ぼく、ほかのくつをはく
から、そこにいいよ」

「ありがとう。それから、わたしがここにいるこ
と、誰にも言わないで。つかまえられたくないの。
約束してくれる？」

「約束するよ。ぼく、誰にもみつからない場所に、
この長ぐつをしまっておこう」

男の子は、片方の長ぐつを、ピーだまやおもち
やの自動車や、カイガラがしまつてある、たから
ものばこにかくしました。お父さんもお母さんも、
手をふれてはいけぬ、秘密の箱です。

「あの小さいおひめさまを、まもってあげなや。
ぼくはあの人よりずっと大きくて、強いのだもの」

「おさない男の子にとって、それは、生まれては
じめておぼえた、優しいきもちでした。もうひと
りの人を想う心を、男の子ははじめてもつたので
す。

「せつかく買ってあげた長ぐつを、どうしたの」
小さくなつてしまった古いくつをはいている男
の子をみつめて、お母さんがききました。けれど、
男の子はだまっています。

「こたえないと、こうしますよ」

おしりを、びしやびしや打たれながらも、男の
子はきゅつとくちびるをむすんで、ひとことも言
いませんでした。

「秘密だもの、お母さんになつて言うもんか。長
ぐつの中のおひめさまは、ぼくのことを、信じて
いるんだよ。あの人を裏切ることなんか、できや
しない……」

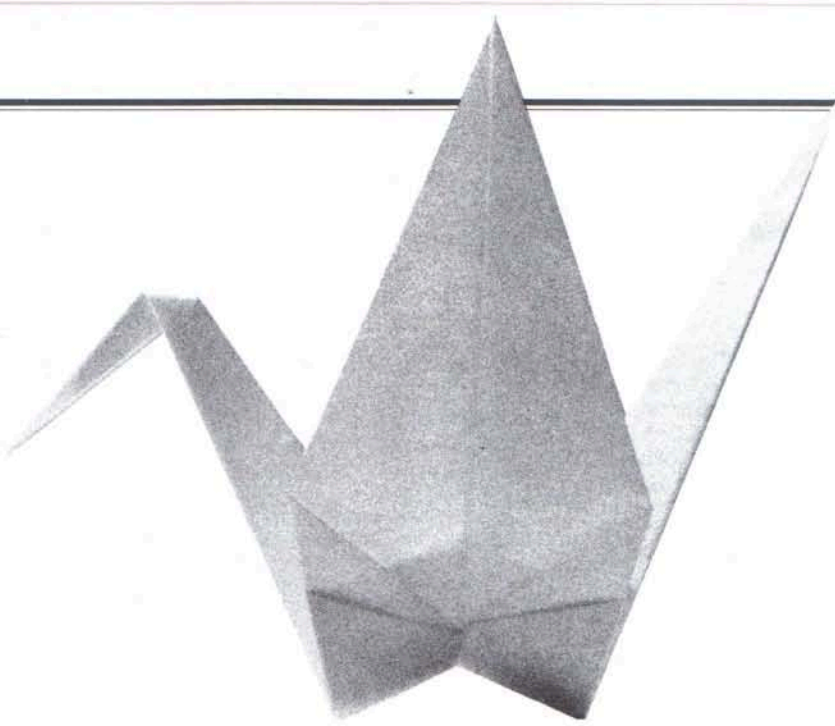
雨は、まだ降りつづいていました。

古典研究

(加藤泗泉)

現代作家による千羽鶴への挑戦

古くから、折紙愛好家の多くは、千羽鶴の美しさに魅せられてきました。先月号で、古典として魯縞庵作「千羽鶴折形」を紹介しましたが、今月号から、古典「千羽鶴折形」に挑戦ということで、現代の作家の作品にスポ



青海波

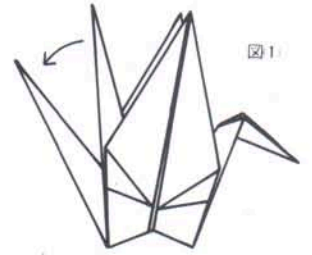


ットをあててみたいと思います。

第一回目に登場するのは、木島一宣さんです。木島さんは、武蔵工大の大学院で学ぶ、二十三才の若き建築家です。木島さんと折紙の出会い、一九七四年、十二月発行の雑誌「銀河」に発表された加藤さんの作品からだといえます。その作品の美しさに感動し、自分の手で千羽鶴を折ってみたいと思い、魯縞庵の「千羽鶴折形」を見るために、ずいぶん国会図書館に通ったそうです。それが、千羽鶴を折るきっかけだそうですから、千羽鶴を折るようになってから、まだ一年と数ヶ月しかたっていないことになります。今回発表する作品は、木島さんの創作のほんの一部分ですから、木島さんがどんなにエネルギーに創作をつづけてきたか理解できません。それでも木島さんは、これからだといえます。折っている時に、どんな別の千羽鶴のバリエーションがうかんで来るといいます。イメージが別のイメージをふくらませていき、常にイメージの方が、実際の創作活動よりも先にいつているそうです。

今回は、木島さんの数ある作品のうち、特に、魯縞庵の「青海波」から、いくつかの過程をふんで「海鳴りの音」に達するまでの話をとりあげてみました。

「『青海波』を折る時には、鶴の頭と尾の部分には、図(1)のように、レベル差があるので、尾の傾きを小さくしなければなりません。それをた



またま少し硬い小さめの紙で、レベル差を無視して折ってみましたら、鶴が本来持っているレベル差のために、(写真A)のように、後の鶴がだんだんと高くなったのです。」

これが、木島さんが発見した最初のパターンだったのです。木島さんの創作意欲が、このパターンをそのままにしておくはずはありません。

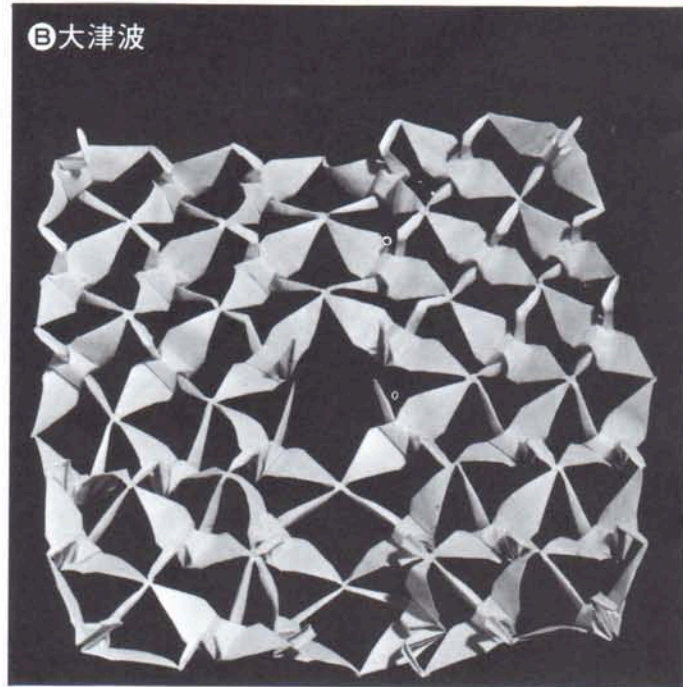
「これを四つ組み合わせることができるのではないかと考えて、『大津波』(写真B)をつくってみました。ごらんのように、まんなかの四羽の尾がつながっていないために間がぬけた感じがするんです。それに羽方向と頭方向とは長さが違いますから、多少あばれた感じがするんです。」

木島さんは、直接お話になりませんが、「美」ということに相当敏感のようです。統一とバランスを欠いた作品は、作品として未熟だということでしょう。木島さんの追求

◎海鳴りの音



◎大津波



は続きます。

「『大津波』は、それなりに好きなんですけど、もっと別な形はないかと考えてみたんです。それで、四組ではなくて三組にしたら、『大津波』のあばれた感じがおさまるのではないかと考えたわけです。」

その結果できたのが、『海鳴りの音』(写真C)と名づけた作品です。「青海波」の平面的な美しさが、木島さんの創作によって立体的な美しさに発展したのが良くわかります。

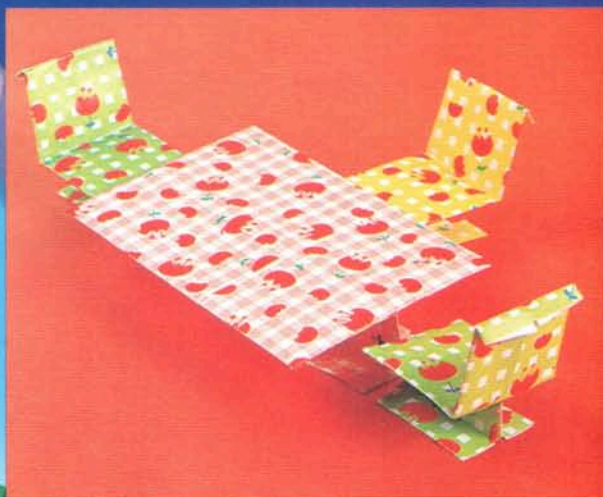
この作品は、55 cm × 88 cmの和紙で折られています。まず、製図を書くことからはじめます。そして、木島さんが一番緊張するというカッターによる切り込みです。これが終わったらあとは、美しく折るだけです。木島さんは鶴を折っている時が一番たのしいとおっしゃいます。和紙は、まるで折っている人の心が伝わるかのように自然に折れるそうです。和紙と鶴。日本の伝統美が現代の若い作家の手で創作されているのです。

木島さんは、最後に、鶴を折っていくことは根気のいることだといっていました。「海鳴りの音」は、完成度の高い作品と思われるのですが、木島さんにとっては、一つの過程なのかも知れません。次の作品へと、木島さんの創作意欲は燃えているようです。

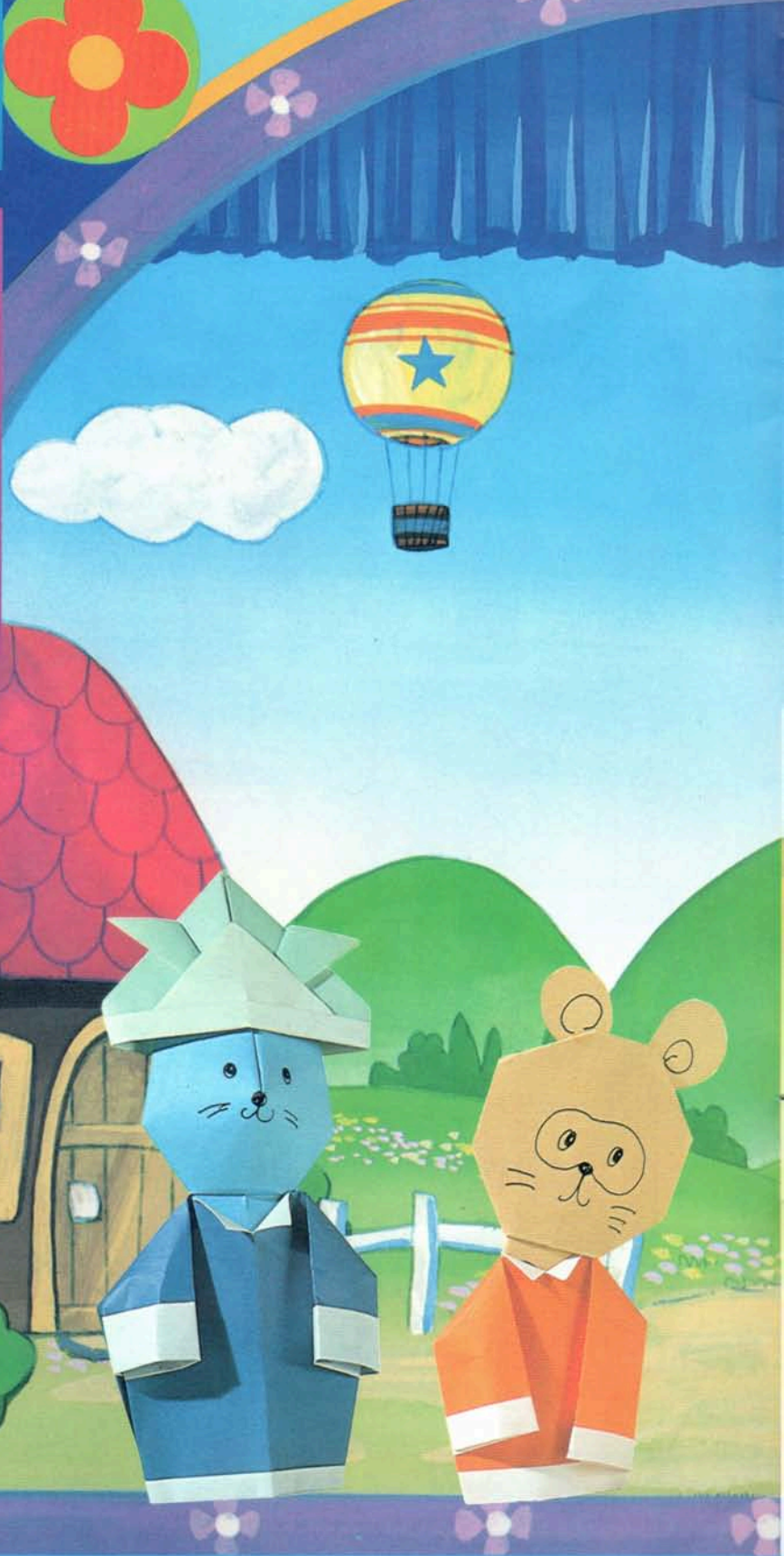
めの折紙

大田区の昭和幼稚園では、先生も子どもたちも折紙が大好き。たくさんみせてもらった作品の中から、今月はラケット折りを選びました。簡単な折り方ですが、ちよつと発展させると、ほら、こんなに楽しい指人形が…。

豊かな個性にみちた幼児たちに、顔を書いたり帽子を折らせたり。そうそう、兜なんかをかぶせてやっても良いですね。もつともつと色々なものができそうです。新しい作品が出来たら、ぜひ、送って下さい。(指導・長野耕平)

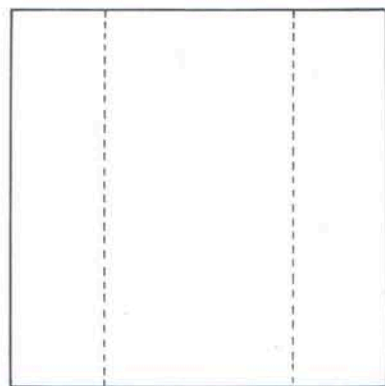
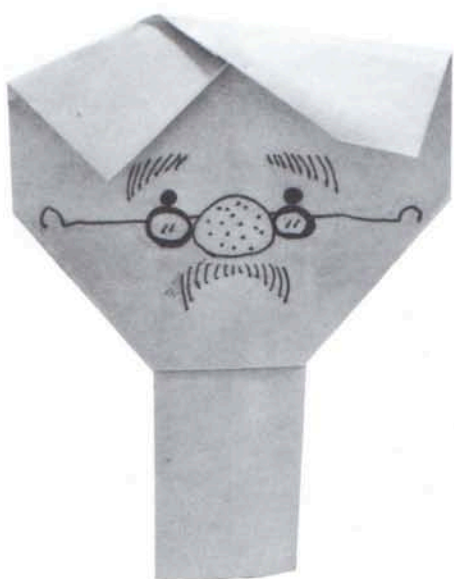


幼児のた

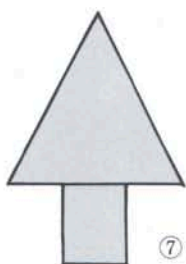


指人形とその発展

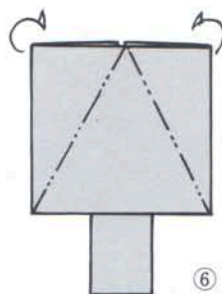
協力／阿部笙子
指導／長野耕平



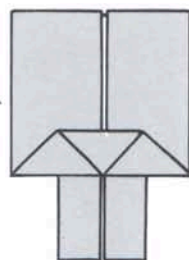
①



木



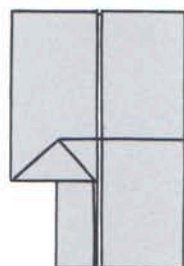
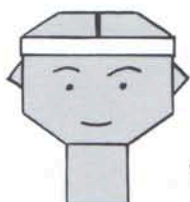
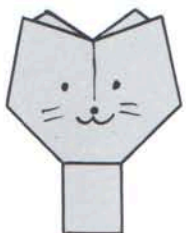
⑥



⑤

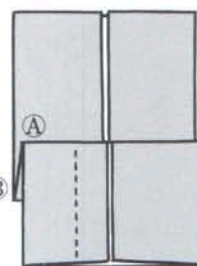


②



Aを開くと

④

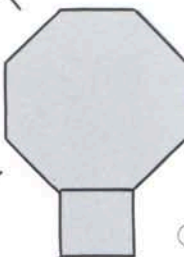


B

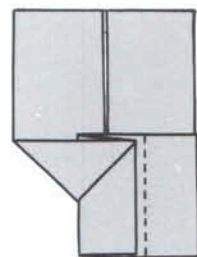
③



指人形



⑦



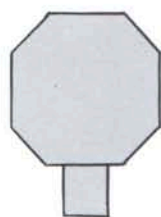
Bを開くと

④

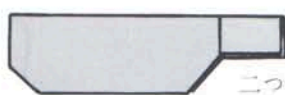


羽子板

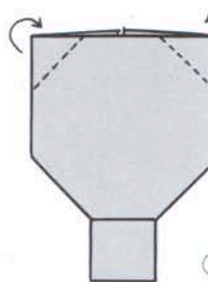
長い紙で折り
切り紙を上
に貼る



卓球ラケット

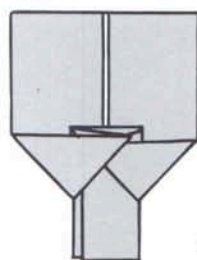


二つに折ると
包丁



⑥

おりこむ



⑤

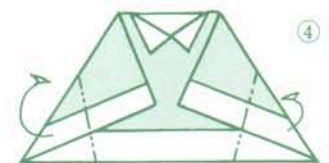
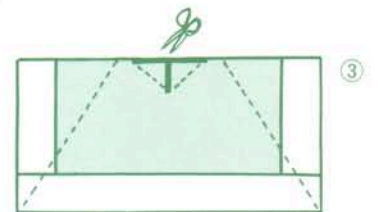
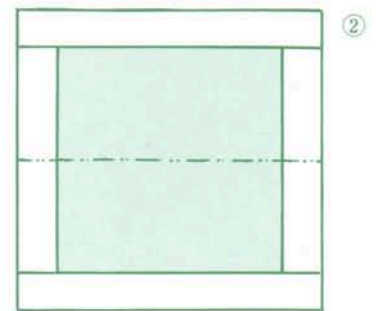
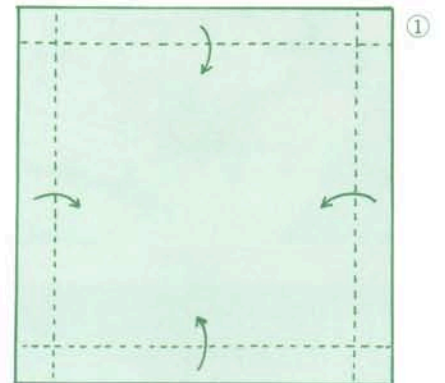
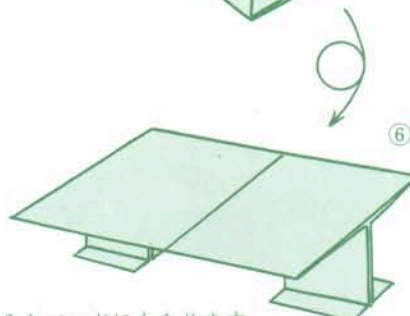
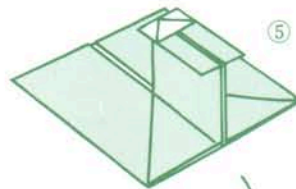
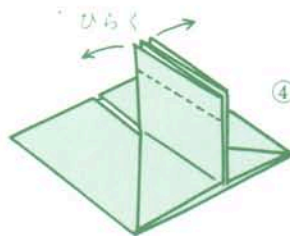
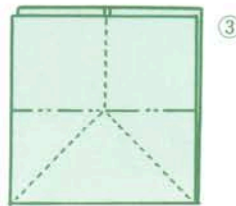
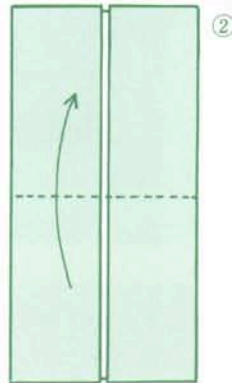
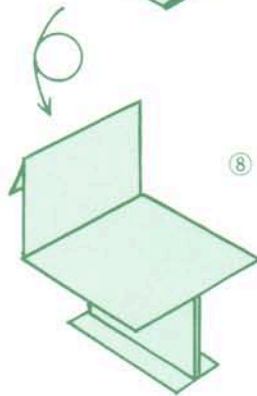
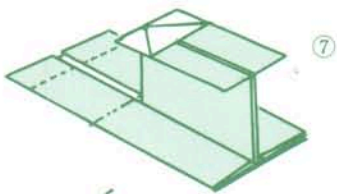
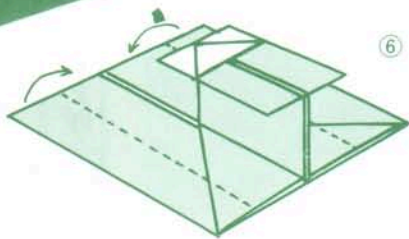
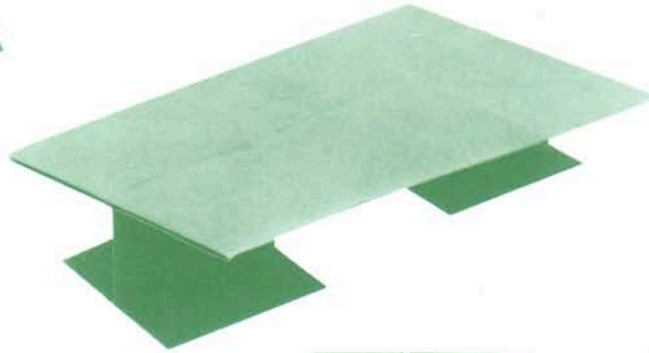
いす

指人形からの発展

テーブル

指人形からの発展

指人形のマント



うしろはのりか
ホッチキスでとめる

長くするとベッドにもなります
同じものをふたつ作り、さしこんで下さい

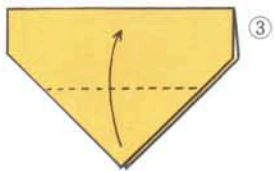
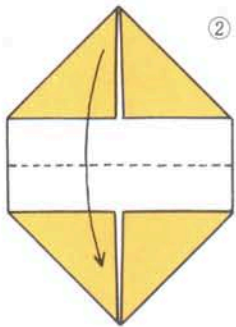
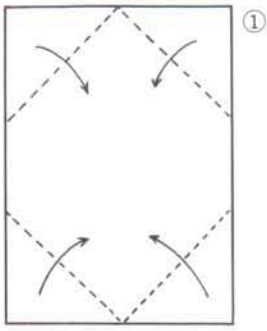


実用の折紙

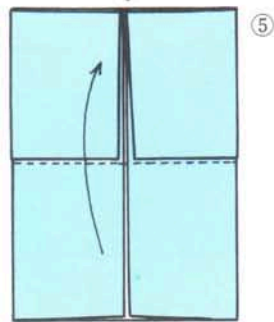
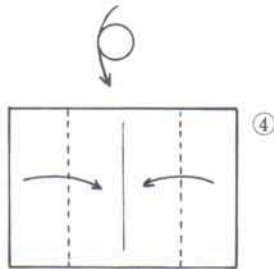
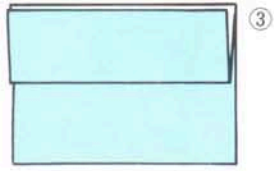
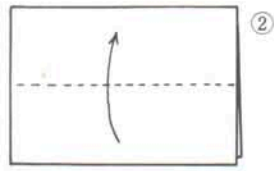
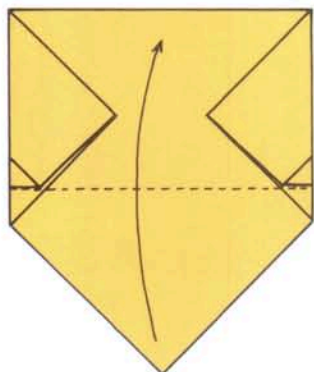
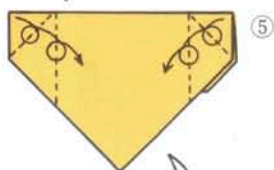
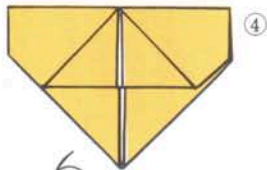


帽子 / ゴミバコ

伝承作品

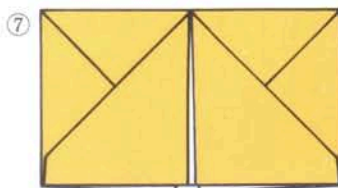


上の一枚だけおります

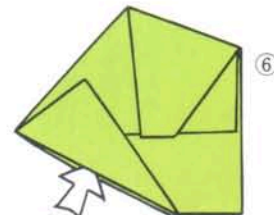
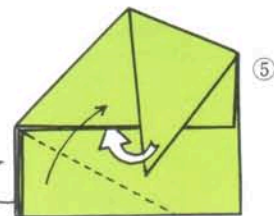
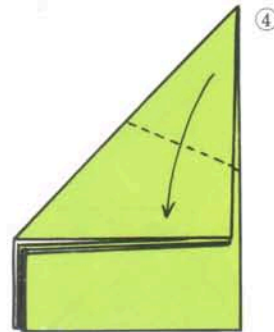
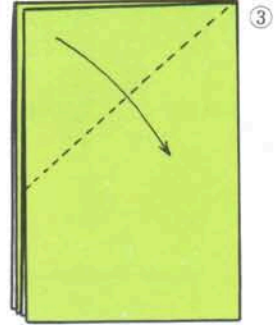
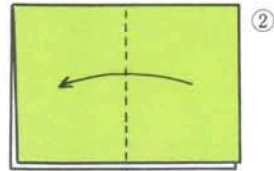


完成図

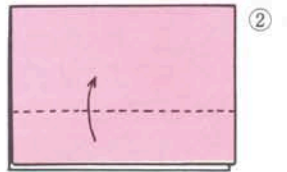
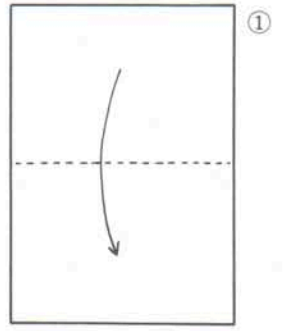
上からおしながら下を開く



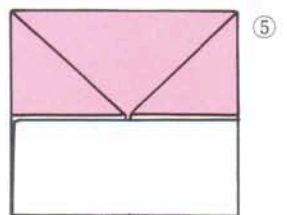
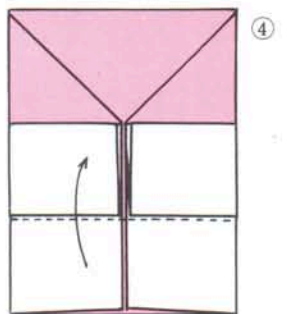
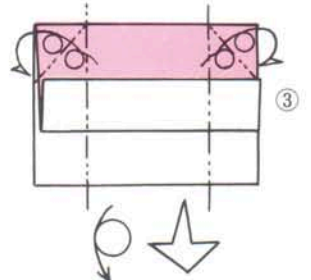
開きます



開きます 完成図



一枚だけ上に



開きます

おりがみと幾何

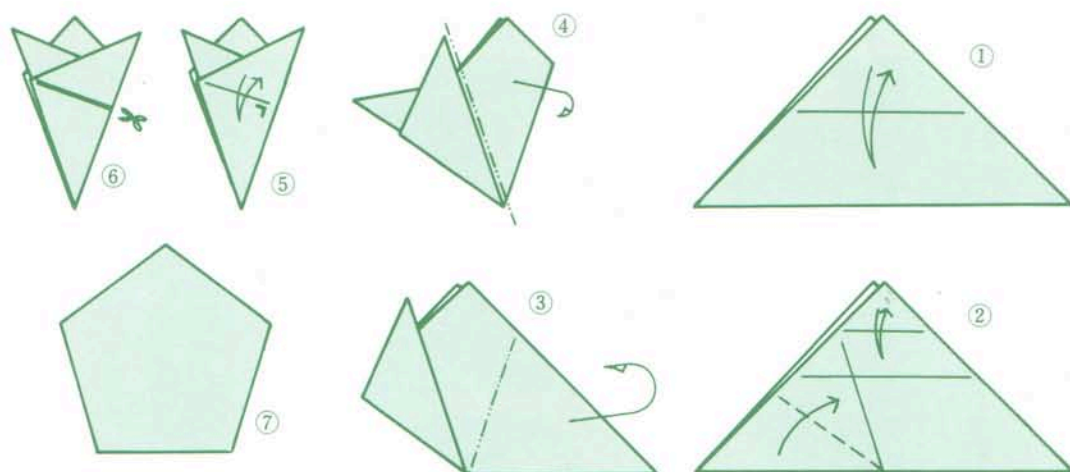
阿部 恒

前号で伏見康治先生に正六角形の紙で作る正八面体の折り方を指導していただきました。正六角形からは、まだ色々なものが折れますが、正五角形も正方形の紙からは作りにくい美しいパターンを折るために、かかせない形でしょう。とくに五弁の花を折るには、ぜひ欲しい形です。

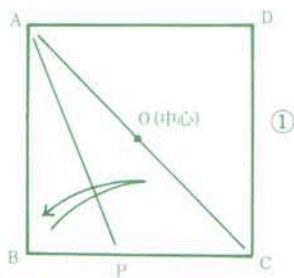
今回は正方形の紙（折紙）からの正五角形の作り方を四通り紹介いたします。

1 一番簡単な作り方（日本折紙協会会報3号12ページより）

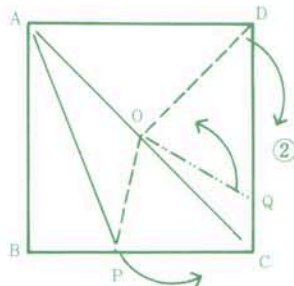
これは中心角で1度44分のプラスの誤差があります。これを考慮し、なれば何とか使える正五角形を作ることが出来ます。



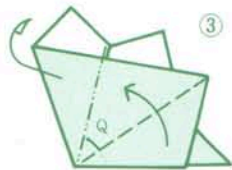
2 中野独王亭氏の正五角形A 中心角で26分のマイナスの誤差です



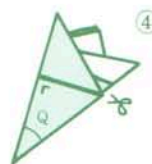
正方形ABCDの
∠BACを2等分する
折り線APをつける。



OD、OPに折り線をつける（定規をあてて折り線をつける）
線OD、OPを合わせると∠DOPを2等分する折り線OQができます。



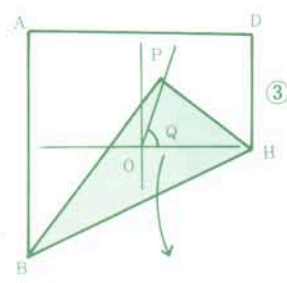
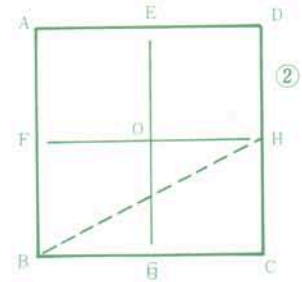
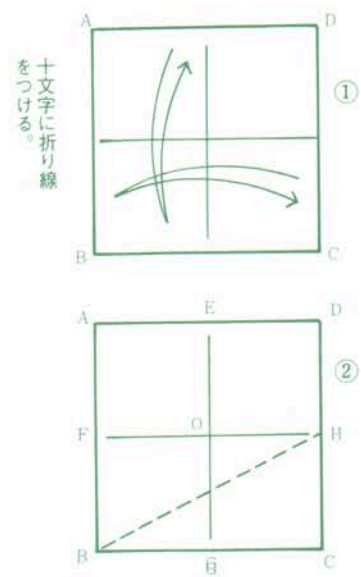
そのまま全体を押しつぶすと③になります。そして、左右を前後に折りがえす。



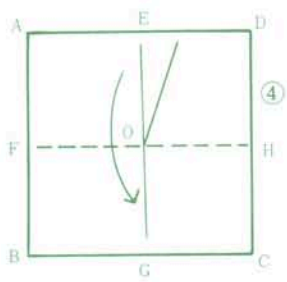
この場合のOは、
35'47"

3 中野独王亭氏の正五角形B

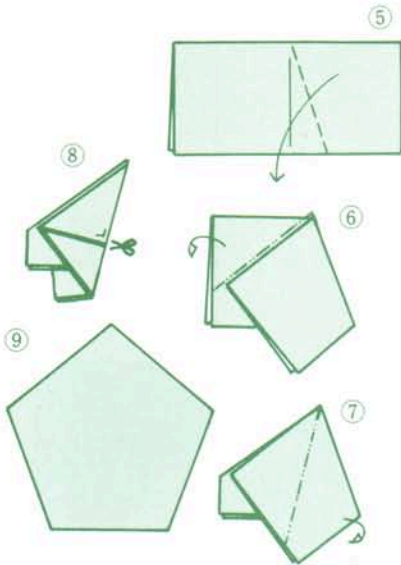
これも中心角で26分のマイナスの誤差です



BHを軸にしてCを折り返した点をPとし、 $\angle POH$ を $4L/5$ とする。

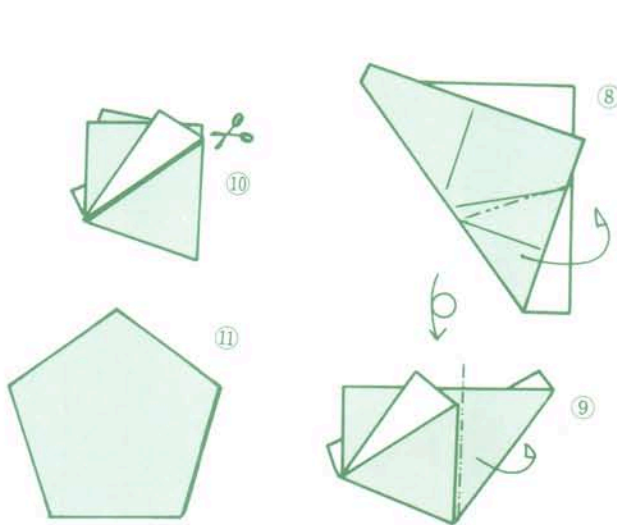
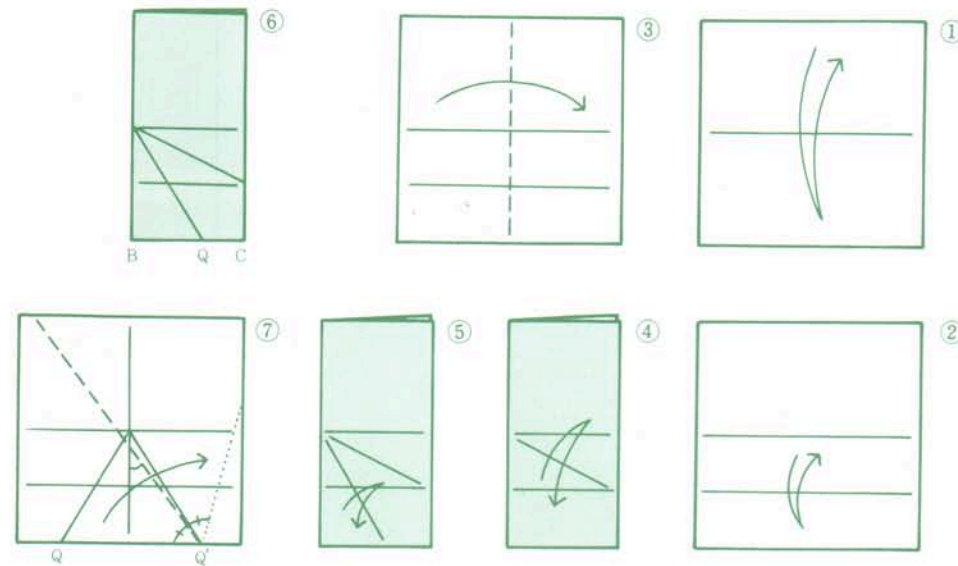


この場合の $\angle POH = 71'34$



4 計算上正確な正五角形

最後に計算上正確な正五角形の折り方を図解しましょう。これは「数学セミナー」という雑誌の昨年八月号に掲載された伏見康治先生（理論物理学者で本誌前号に正八面体の折り方を寄稿された）の論文から折り方のみを先生のお許しを得て転載させていただくものです。



ここは読まなくても折れます
幾何学に強い読者の方は⑥で点QがBCを黄金分割する点であることにすぐお気づきでしょう。ですから⑦で二つ折りを開いた時、正方形の一边の長さを対角線の長さとする正五角形の一边が \overline{OQ} であることもすぐおわかりと思います。

折紙

高浜利恵

① シドニー・フレンチさんは、イギリス・オリガミ協会（10月号参照）の創設者です。10年程前にカメレオンを送って頂き、その折り方の美しさに驚いたものです。その後、新しい作品として、アルマジロが来ました。この時、お返しに私の羊を送ったことを覚えています。

② ジョージ・ローズさんの象（一枚で折ったもの）は大勢の人が折っています。なかなかの傑作も沢山あります。この象は、10年程前、送って頂いたまましまっていたものです。子象がもう二匹程いましたが、よそに上げました。

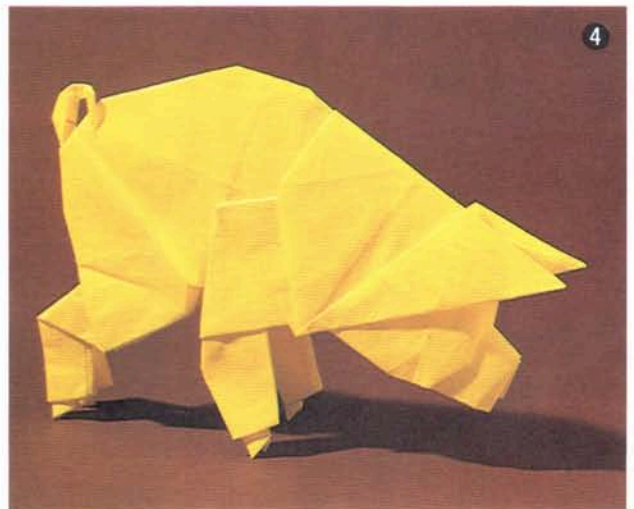
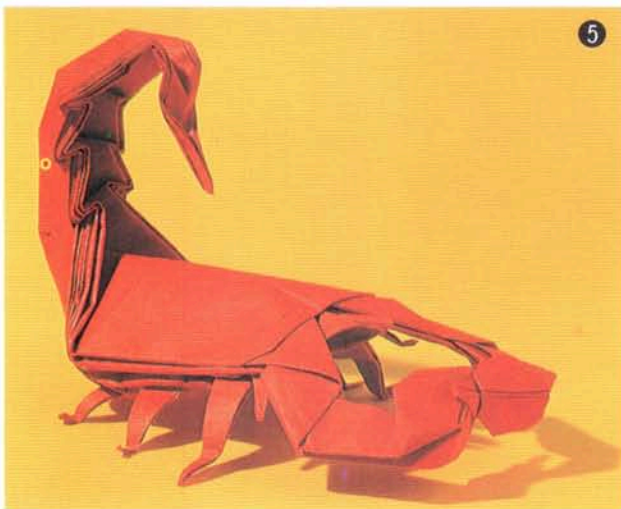
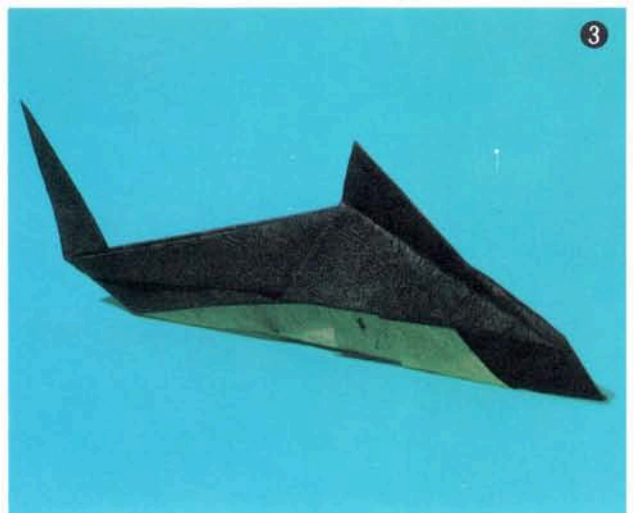
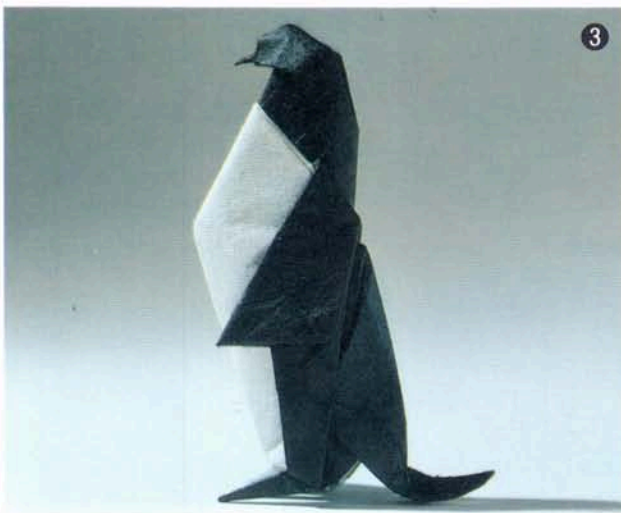
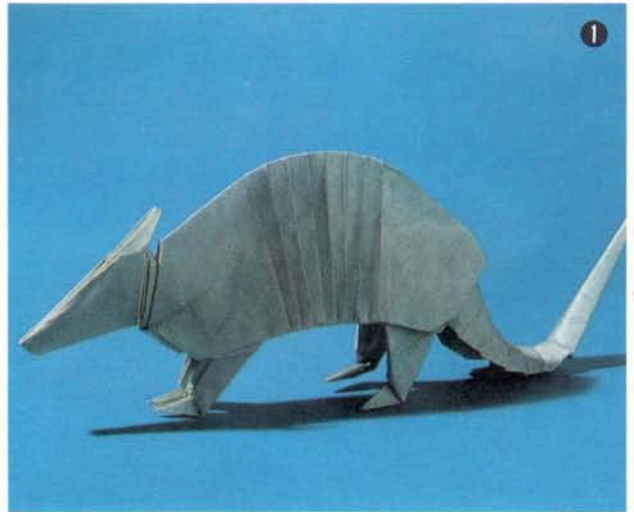
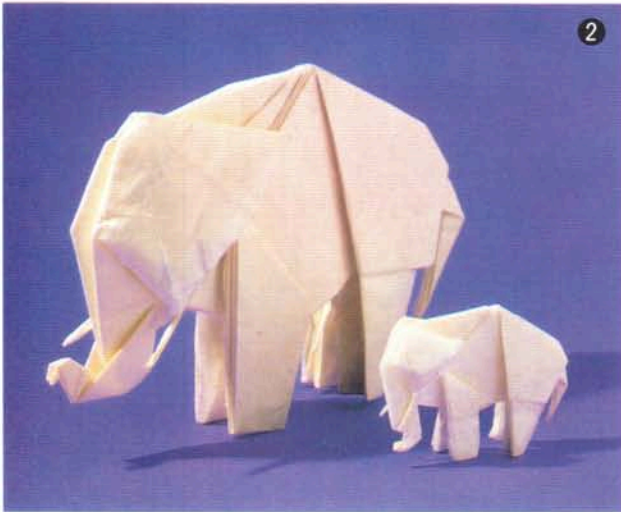
ローズさんはアメリカの作家の一人。シカゴ生まれの画家で50歳位。絵の方でもパリやニューヨークで、度々個展を開いています。早くからオリガミ・センター（10月号参照）の会員で、優れた作品を沢山持っている人です。③ カロス・コルダさんは、前にアドルフ・セルシードと名乗っていた人です。アルゼンチン生まれの奇術師。世界各地のナイトクラブ、劇場等で公開する手品は好評でどこでもなかなかの人気だそうです。一昨年来日した

時、私もテレビとステージで、実際に見せて貰いましたが、ユニークでもしろい手さばきに驚きました。折紙歴も長く、独特の基礎折りで、亀、孔雀、馬に乗ったムリア人、おうむ等優れた傑作を沢山持っています。

④ この豚は、正方形二枚の複合ですが、コルダさんが二枚で折ったものはこの他にはほとんどありません。

⑤ パトリシア・クロフォードさんは一九四〇年フィラデルフィア生まれ。若くてお母さんになったクロフォードさんは、折紙に出逢い、たちまちそのとりこになりました。非常に頭のよい人で、次々に新しい作品を発表し、ひとの意表をつけています。クロフォードさんの作品は、ニール・イライアスさんの作品に似ています。たとえば、「水あびをする鳥」「丸木の上のりす」「巣の中の鳥」等といったものを一枚の紙の両面を上手に使って、非常に複雑な折り方をして、仕上げに面白さをねらっています。このさそりは、フォイル紙で折ると体の丸味や味の曲りが自由になって、もっとリアルスティックに出来ると思います。

海外の



内山興正



新幹線岐阜羽島駅。岐阜市と大垣市とのほぼ中ほどにある。新幹線の駅としては、静かすぎるほど静かな駅である。内山興正先生の家は、大垣市の上面という場所にあるが、岐阜羽島駅から、バスで二十五分ぐらいの場所である。長良川の堤を大垣方面に進み、掛斐川の橋をわたるとすぐ上面である。

内山先生のお宅におうかがしたのは、午後二時。先生は、宗教関係の原稿を書いているところだった。先生は、昭和十年、早稲田大学大

学院西洋哲学科を卒業なさり、その後宗教の方に進まれた。つい最近まで京都の安泰寺に住職なさっていた。先生は宗教に関する著作を多くのこしている。

「この十年は、宗教の方をやっておりましてので、まったく折紙は折っていませんでした。隠居してからですよ、折紙を再びはじめましたのは……」

張りのある、しつかりした声で先生は話をはじめた。去年折紙協会の講習会が開かれた時は、

健康がすぐれず欠席したとのことだが、こうしてお話を聞いていると非常に元気そうだ。今年の講習会には出席したいと笑いながら答えて下さった。

「折紙を多くの人々に知らせてゆくことも大切ですけど、もう一つ、本当の意味で折紙の心を伝えていくことも大切だと思います。」

折紙には、折り方を覚えていく楽しみがあることも事実だが、それよりも大きな喜びに、創作する楽しみがある。折紙の創造性の問題は戦後からなじられて来たといわれている。幼稚園の先生などが、折紙はぬり絵と同じく創造性はないと断言していたのだ。先生は、このような折紙の創造性の問題になると話が具体的にそして豊富になる。

「折紙が流行して、みんなが折るようになり新作が生れてきたから、創造性があるとか、そういった問題じゃないんです。新作を無理して折ってつくる、それは、まだまだ本当の作品じゃないと思うんですよ。作品には、なんていいですか、もつと奥深いものがあるんですよ。」

単に、新作がつくれるから折紙には創造性があるというような問題じゃないようだ。話は、むづかしくなりそうだが、六十年間折り続けて来た、先生の話を言葉だけで理解するのは、困難なことのように思われる。とにかく根気よく話を聞くことにした。

まず、先生と折紙との出会いの話を聞けば、先生の折紙観が理解できるのではないかと思いついてみた。その答えによると、先生は折紙を、父親から教わったという。その父親は父、両親から折紙を教わったという。この話を聞くと、先生の折紙が、実に三代にわたって生れてきたものだということが理解できる。そして、先生の折紙は、この父親の新作作品と伝承作品の両方を学ぶことによって形成されてきたようだ。

シリーズ人と折紙

「祖母や父の、折紙は、今という新作だったんです。魯編庵の『千羽鶴』のように切ったりして、新作を作り続けたのです。それとは別に、鶴や奴さんの伝承作品は、無理なく、それ以外の折り方では、折れないという作品なんです。学生時代に、新しい作品が伝承作品と同じように、いくつかの基本形にまとめられるのではないかと考えていたのです。一つの折り方以外では折れないような作品、それを私はめざしていたのですね。」

事実、父が講談社の婦人倶楽部で折紙作品を発表していた時の折り図は、私が書いたのです。父の折り図ですと、読者の方も編集部の方も折れないんですね。ところが、私が書きますと、皆さん折れるんです。しつかりした基本形をまとめ、そこから無理なく発展させることによって新作を創作することですね。」

先生の折紙に対する考え方は、一歩も二歩も先へ進んでいるようだ。先生は、自分の作品を伝えるという事に関してはどう考えているのですかと聞くと、かなりきびしい答えが返ってきた。

「人に伝わっていない作品は、作品ではなくてその人の自己満足ですよ。これ以外の折り方では伝わらないような作品、しかも人から人へ伝えられる作品、それが本当の意味で作品と呼ばれるものですよ。」

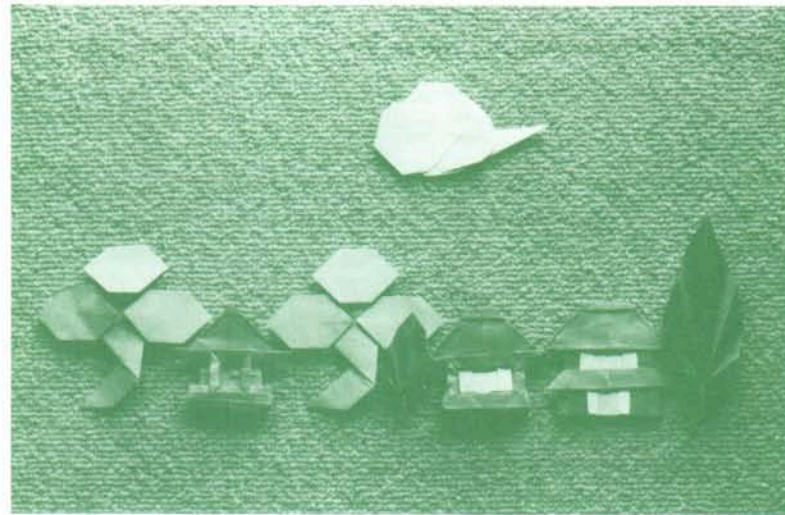
だから、先生は、自分の作品に関して、きびしい考えを持っている。ただ、最近やっとな折紙の心と呼べそうなものが理解できたという。とても、理解できそうにないと思っただ、とにかく先生の話を聞いてみた。

「六十年間折っていると、不思議なんです。紙を見てると、折るものが見えてくるんです。そうして、実際に折ってみるとそれが折れるんです。最近、世界の万物が、正方形の紙にあるの

だと私は考えるようになりました。作品を作ろうとするのはいいのです。作品が自然にできてくるのです。」

先生の話を聞いて実際の作品を見ると、それが理解できる。表情豊かな人間。地球上に存在するすべての動物。太陽や木や雲などの風景。正方形の紙から、新しい世界が生まれてくるようだ。

先生の折紙の仕事でまだ未発表の非常に楽しい仕事がある。それは創作折紙童話とよべそうな仕事である。折紙の心という境地に達している先生の別の楽しい面である。それは又プロック折紙をうまく利用した作品でもある。題名は「紙子ちゃん物語」。紙子ちゃんは、お母様から大きな折紙をいただいたのでこれで、折紙の馬



を作ることにしました。——」で始まる童話は、紙子ちゃんがその馬に乗ると馬が本物となって動き始め、そして魔法使いのおばあさんに出会い幻想的な折紙の世界に入っていく、しかし折紙の動物達があまりにいたづらをするので魔法使いのおばあさんが魔法をいってしまい、ついには動物達がただの折紙になってしまおうという話である。チャンスがあったらぜひ皆さんに紹介したい作品である。

午後四時にインタビューを終えたが、二時間位の時間ではとても先生の折紙を全部理解することはできないと思っただ、家を出た。測り知れないぐらいの大きな折紙世界があることを、内山先生は話してくれたのではないだろうか。



随筆 折紙とわたし

舟はつかしおりました。水森亜士

子供はいあそびはあたしの性分に合っているのか、すい分と大きくなるまで、カカわつていたモンです。着せかえ人形は中一くらいまで、おままことは高一かしら……かくれんぼは高二……いやーこれは今だつてやつてる下ー。そして折紙は……と思い出してみると小学校時代によくやつたものです。きつと幼稚園でならつたことがそのまま延長していただろう。いろんなものをならつた苦勞なのですが、なぜかあたしは舟が大好きで舟ばかりおつていました。色紙や千代紙を使って、それは赤・黄・紫・桃色・水色と、色とりどりのカラーのお舟。それがたまたみの海に勢をのこします。また花柄、あねさま人形、松葉くすしや市松模様などのきれいな千代紙の舟も並びました。たぐさんだまると箱に入れて妹と河に浮べたものです。(わたしの家は日本橋の河つべり。子供のころはあの怪物みだいな高速道路なんか通つていなかったのせいで河とまでゆかなくて、まだまだ河の下下がいっぱいありました。朝夕、かもめが東京湾からとんで来たり、とび去つたりしてとてもいいカンジだったんです。)その神田川に折紙の舟を流すのですが、舟が河面に比して小さすぎるので油断するとすくに見失なつたものでした。

そんな舟ばかりおつていたというのは、男の子みたいに乗物好きだったせいでしよう。日本橋の大通りを通る都電の運転手になりたいたと思つたくらいです。舟を折ること、海の向つ、"ステキな国"へのあこがれをみだしてはつてですね。

折紙の紙は紙であればそれを新聞紙だつていいんですが、色や模様の美しいのであるのが楽しく魅力的でもありました。が、かなしい事にわたしの子供時代は戦後のものない時でしたので、舟が大切にとつておいた色紙や千代紙を使い果すとあとの補充がききません。そんな事が折紙から遠ざかつたのでしよう。思いがけない所にも戦争のかけがあるものですね。

紙ビコーキ

NHKのつばさん・高見 映

その男の子は紙ビコーキしか折れなかつた。母親がいつか「ホントに不器用な子」だつたからだ。器用な女の子達がツルや風船を折つては来たのだが、自分ひとりでは最後まで折れあげない。という事は口の一度もなかつた。ツルや風船が欲しくなると、買つことにきめた。その資金は……

その頃、まちなかには小さな格接屋さんが沢山あつて、そこへ行って、おじさん達がバチバチとやつてホイと捨てる細い鉄棒のクソを拾つてくるのである。空王冠にためておいて、クソやさんに売る。そして駄菓子屋に走る。ツルや風船があれ玉なん個に相当したか……。値段はその時々、売手の気分のままに大きく変動した。高ければ彼は必死に値切らねばならなかつたのである。

その高校生は紙ビコーキしか折れなかつた。それも極く単純な奴で、間違つてもイカビコーキなような変り型は折れなかつた。ところが、このイカビコーキはその単純な奴に較べると、パフォーマンスよく直線飛行をするのである。

彼は教室の窓から校庭を見ながら「恋文を紙ビコーキに折つて、彼女めかけて投げる。それから「ああ、それ、君にやるよ」と云う」——そう考えていたのだが、すぐさまそれをあきらめた。なにせ彼の「単純ビコーキ」が「イカビコーキ」のように、彼女の方へ真直ぐ飛ぶとは思えなかつたからである。

その男は、紙ビコーキだけは折れる。とそう思っている。——「ここで実際にタメシに折つてみた」——その男は紙ビコーキも折れなくなつていた。フキツチヨなビコーキが目の前にある。つまらない冗談を考えている。「今度、紙ビコーキを折る時は一万円札を使うことにしよう。文字通り、羽根が生えたように飛んで行くんだろつ」。

12月号のおめんを使って……
太田区立蒲田幼稚園主任 清水えみ子
あがりめ さがりめ
ういんくしてませ
どつちのめ (ついでにたま)

あつちむいて きよる
こんどは こんなかお
めだまが てつかくなつたり
ほそめちゃんに なつたりして
おりがみの めだまのおめん
おもしろいね かぶつてみると
じぶんのめも おんなじになるみたい
(たけし)

雑誌に出ていたお面を折つて「ほてな、何が出てくるでしょう?」と子供の前に見せた時、「わかんない。早く見せてよ」とはやしたでられました。そこで私は「みんな目をつぶつて下さい。はい」と言つたら目をあけていいですよ」と、すくすくもつたふつて、先ず、第一の目をみせました。

ひゃー、わらつてる顔……色々な声がきこえてきました。

「また眼をつぶつてよ」すると、今度は薄目をあけている子もいたので、片方の目をバツチリあげた第一の眼にしました。

「あつ、ワインプの顔になつたよ!」

「ねえ、早く。その次は……」と次々に変わる顔を楽しみました。

「ちよつとみせて、どつなつてゐるの?」

もつと、たれ目にすればとが、鬼の目みだいにしたらどうかなあ、など、大騒ぎ。

「先生、どつやつて作つたの? 教えてよ!」

「少しもつたないけど教えてあげよう」と折紙で先ず教えてみました。

「なーんだ、あんがい簡単な手品の類だね」と言いながら、いくつも作り、その次には、包装紙で、自分の顔にかぶれる位の大きいのを作り、鏡をみながら、いろいろな目を出していました。折り重なりをセロテープで止めたり、ワリツプで止めたり。出てくる目に合わせて、自分の顔もゆがめているのです。

折紙の思い出

三木 卓

折紙を教えてくれたのは田でした。学齢前に大連の赤十字病院に入院していたときで、何の病気だつたのでしようか。幾度も入院してくるからよく判りません。敗血症かシフテリカにかつたときのことです。病気がなるとかおさまつてくれて、回復期にはいつていました。余病の腎臓で味のない食事を食べさせ

せられていたときだと思い出されます。最初におぼえたのはヤッコさんと欺し船でした。ヤッコさんそのものを知っていたかどうかわかりませんが、そういうものだと思います。ベッドに横たわって母親と欺し船で遊ぶのが楽しかったです。病んだごどもには心のうごきがあつて新鮮でした。わたしは目をつぶつて、わざと力いっぱいへりを指ではさみましました。なぜそうなるのか、わかっているけれど、なまされようといっしょうけんめいでした。もうそのときのわたしは小児マヒをわずらつていて、左足が不自由な子でした。

親といっしょに鶴を折つてくれました。ベッドの鉄棒に一羽つづ木綿糸で吊すのです。鶴はいつも飛んでいますし、屋形船には人差指が乗つてシーツの河の上をすべつていきましました。相部屋だった子の姉さんから教えてもらったのは、トンボとぶくら雀でした。トンボのつくり方を忘れてしまつたが、はじめて鉄をつかつたようにおぼえています。鶴のバリエーションのひとつでした。

記憶の片断にセロファンにへるまれ、紙の帯をかけられた色紙のうつくしい姿があり、自分のつくつた折紙の作品があります。折紙をつくられたものは、幼いごどもの手になるものですから簡単なものばかりですし、無恰好ですが、どれも片光線で片側に長い影を曳いているのは、わたしが夜になつてつらつらつらしているときの記憶だからです。わるい夢からさめると付添の田のころへ仕事かえりの父親が寄つたところで、今日はまだ飯を喰つてなかつたよ、などと喧やいていて、くらいなかにスタンドのあかりがひとつついてくるのです。父は、牛肉の雑語をあけて冷飯をかきこんでいる気配らしく、せわらしい音が聞えています。わたしは、力ない眼を、ほんやりとあけ折りがみたちをみつめているのです。

おりがみ喫茶

フリーディレクター・井上えつ子

三重県津市にへんな店がある。仕事仲間のディレクター・女史が脱東京を夢みて、故郷の小都市に小さな店を経営することになったという。もとより計算の弱い彼女のごと、うまくいくわけがないとは思つていたが、過日旅行の途路に訪ねてみて驚いた。表の小さなシヨウウィンドには、東京の著名デザイナーのオリジナルが無造作にかかつてあり、中には仲間たちが海外取材のありに買ったというインカやアルメニアやらのおかしなアクセサリーなどが雑然と並んでいる。更に入るとディールームと称するカウンスターがあり、なぜかディーならぬワイスキー、ブランドの類が所狭しとひしめいている。

止まり木に寄り、恐るくコピーを注文しながら、エプロンと称する音楽家志望の従業員坊やに店主の批判をきいてみる。「ええ、もう大変な店ですよ。気に入らない客は追い出す。お客になるより自分で飲む方が多い。飲めない者は男じゃないうような言葉をうし作ら、酔払えばどんなお客でも、即つまみ出す。一体これで商売になるんどうかねえ...」

夜になると、更に不思議なことが起つた。いつの間にか集つた常連たちは、のむ程に、そなえつけの書棚から一冊の本と色紙をもち出し、今日はいかにいごでみようとつそぶき生う、一言に折紙を始めたものである。きいてみれば、ある日この店を訪れた、

s社の編集者s氏が置いていった折紙の本がいつしかブームを呼び、難解不備な図解に挑戦しているのである。折しも桃の節句。

めビナ男ビナを折る中若男女の客を相手に、彼女も一きわ心な面持ちで折紙を操つていたが、以外とこれ飲んべえ客達の酔言暴言を制する彼女独自の演出ではないかと思つた。

もうすぐ 花屋さんの店先で
カーネーションが 主役をしめる
五月九日がやつてきます
さて 今年の母の日は
すこし おもむきをかえて
折紙のカーネーションを おくられては
いかがでしょうか

サンリオでは このたび
折紙と カーネーションの折り方の図解を
つけた かわいい母の日のカードを
はじめて 企画いたしました
サンリオ ショップの店頭で
ぜひ お手にとつて ごらんください



おりがみ広場



今月号から新登場のおりがみ広場です。読者のみなさんが自由にお話するページ。おたよりは、左の所にお話しします。
東京都品川区西五反田7-22-17
TOCビル1F 日本折紙協会
「おりがみ広場」係

私の勤務している所は、そうです、東京都の渋谷児童館と同様、と申すよりは実は都がそっくりそのまま、私共の真似をして小型につくられたのですが……、だから内部の機構まで全く同じなのです。したがって日夜青少年に接して暮らしている青少年指導者の立場にあります。お母さん達のように、青少年の周辺にある方々や、それをとりまく環境の事まで私達の仕事の対象になってまいります。こんな仕事の中で、私にとって紙は、大きな

力でした。ペーパークラフト、ペーパースカラプチャー、折紙、和紙細工、切り絵、その中で一枚の紙から生み出す表現力の豊かさと夢。「児童のしつけ」が専門だった私は、いつのまにかP.T.A.、母親クラブ、婦人会で講演するよりも、折紙指導を依頼されることの方がより多くなっている自分に気がつきました。そして、余技ですからはすまなくなり、これは勉強が必要だと思ひ、参考書をあさり勉強をしてみました。

余技の楽しみから、特技にと、私自身の折紙に対する考え方も変化し育ってきたような気がします。だからこそ、私の中に、人に教えることの気恥しさや恐れが最近でてきたのだと思います。

(藤沢市鵜沼海岸4-21-5 澤入宏至)



NHKのテレビを偶然みていたのですが、一枚の紙から、あれだけのおひな様が折れるとは、驚きました。雑誌を買って、さっそく子供達と折ってみました。三月三日の、おひな様には、間にあいませんでしたが、子供と楽しい一時を過ごすことができました。

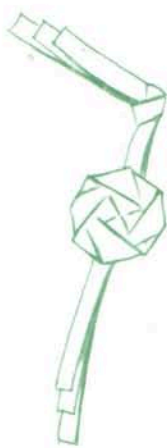
「実用の折紙」の財布や懐紙入れを折ってみたいと思つていますが、紙の質や、その紙をどこで買えばよいのか教えて下されば幸いです。

いまの私の夢は、自分で創作した作品が、「おりがみ」に掲載されることです。何とかして、創作できるようになるまで「おりがみ」を読みつづけたと思います。

(青森県弘前市寒沢町 川嶋 文)

ふとしたことから折紙に興味を持ち始めた者です。折り始めてから今日で3日目。折紙の中に秘められた無限の線から色々な物を創作することのすばらしさに感動しているのです。今日、近くの書店で「おりがみ」を見ました。わかりやすく、とても楽しい雑誌です。今後の発展を期待しております。

(熊本市大江町渡鹿38-9 有田方 峯健二)

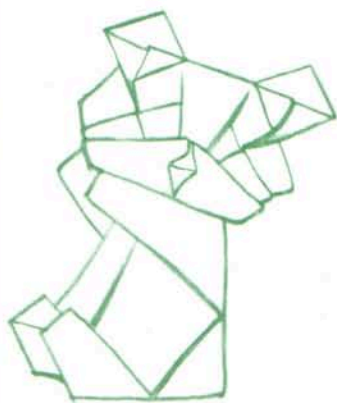


折紙を折ったのは、あとにも先にも、幼稚園の時だけ。表紙のスマレがきれいなので、つい買ってしまいました。折り図を見ながら悪戦苦闘。三時間もかかりました。でも、スマレを折ったあと、チューリップやバラを折ってみると以外と簡単に折れました。折紙の楽しさを少し感じはじめたところです。

無器用な兄貴に、チューリップの折り方を教えてあげたら、うれしそうな顔をして、大学のガール・フレンドに教えてやるんだと、はりきっていました。

自分の覚えたものを、人に教えてあげるって楽しいですね。

(田無市西原町3-5-43 渡辺規子)

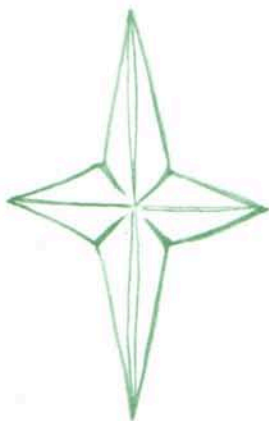


私は、白河という小さな町で幼稚園の先生をしております。仕事が終わって本屋さんへ寄つたら、「おりがみ」と書いた、見たことのない雑誌がたつた一冊、ポツンと置いてありました。さっそく、手にとつて読んでみますと楽しい記事がいっぱい。すぐに買ってしまいました。

次の日、幼稚園で「子どもの創作」のスヌービーの折り方を教えてやりますと、子供たちは、お喜びで、赤いスヌービーや、黄色のスヌービーを折ってきました。あつというまに、机の上はスヌービーでうまっていますました。

「おりがみ」は、私と子供を結ぶ大切な本になりそうです。今後も、毎月読んで参考にしたいと思ひます。

(福島県白河市向新蔵18 佐藤和子)



鶴を折りはじめて、一年ぐらいいになります。が、「おりがみ」3月号のニュースは、大変うれしニュースでした。それは、魯編庵の「千羽鶴折形」が完全復刻されるからです。横雲とか「青海波」とか、名前を知っていました。その原本が手に入るのかと思うと、今から胸がときめきます。

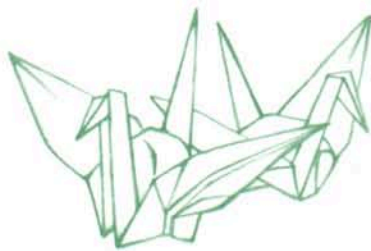
それから園部先生の花の作品、美しい曲線に感激しました。あれだけの花でしたら、きちんと折れば、心のこもった贈り物にもなりますね。

(杉並区松庵3-26-11 渡辺俊一)

「人とおりがみ」の加瀬三郎先生の作品、とてもすばらしいと思いました。カラー写真の二つのお面以外にも、たくさん作品があると聞いております。いつか、発表して下さい。

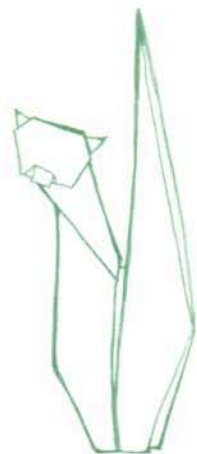
内山興正先生の「たぬき」は、イラストとうまく合って、楽しい雰囲気がよく表われていました。でも折るほうはむずかしいですね。童謡と折紙という組み合わせもいいですが、童話と折紙なんて組み合わせも楽しいのではないですか。発展を期待しています。

(埼玉県草加市八幡町693 宮田康夫)



昨年九月名古屋の吹上ホールで生協のつどいが開催された時、折紙を売っているところで、一人のおじいちゃんと女性の方が、一枚の色紙から、うさぎ、ねこ、パンダ、お面などを折っているのを見て、面白く思い一時間くらい教わりました。もともと不器用な私ですが、色々教えていただいて一生懸命折りました。最後に、おじいちゃんが私に、黒い紙で折ったものをくれました。それをみた時「アツ」と息をのみこみました。白い地下足袋まできちんとはいたお坊様が立っていたのです。私は、それがもらえたので、うれしくて、うれしくて、そこで売っていた「おりがみ」を、すぐに買ってしまいました。

(名古屋北区成願寺町1-3 山本綾子)



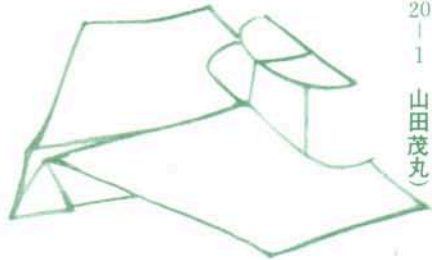
帰宅しますと部厚い封筒が郵便箱につつまこまれていました。夕食もそこそこ本をひろげ、佐竹先生の折紙を折ってみました。折りあげたよろこびとこれから折りあげてゆく作品への希望とたのしみに折紙に傾倒するものだけが味えるものを知りました。

市民相談という神経の使う仕事をしているところから折紙こそ心の憩いになります。早く趣味と実益が兼ねられるよう努力するつもりです。

「おりがみ」は、大変楽しい雑誌ですね。創刊号には猫をとりあげ、二号には犬というように編集されていますが、どうぶつ折紙は子供に好かれるだけに今後もつづけてほしいと思っています。

おりがみ講習会は東京を中心に展開されていますが、大阪・神戸市でも開催してほしい希望を持っています。

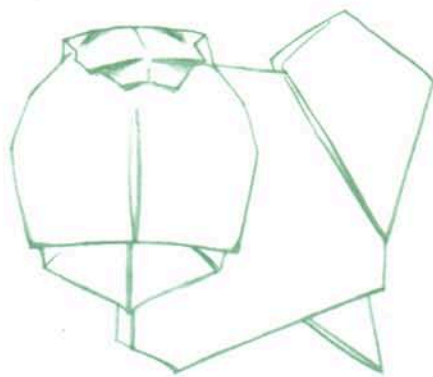
(西宮市笠屋町20-1 山田茂丸)



先日、お見舞いに頂きました。「入院」ってないくつなんてすよ。きめられた時間にきめられた通りの検温、診察、食事、昼寝等々、その上規則であれもこれも駄目なんて。

そんなこんなでイライラしていた私に最高の贈り物でした。3月号の花をかざったり、しおりをつくったり。10月号のおすもうさんもグー。番付表をつくって一日一回大相撲春場所を開いています。私の洋子川が現在のところトップです。みんなベッドに帰るとケイコ？をしているみたいです。次号も楽しみにしています。

(長岡市上川手8-4 河合洋子)



この間、ブラリと五反田の折紙協会の事務室に遊びに行きました。女の人が二人、親切に教えてくれたのは、おひな様。思ったより、狭い部屋でしたが、むずかしそうな作品が、たくさん並んでいました。作品も、折り方だけでなく、紙の質によってもずいぶんちがってくるんですね。

私達だけではなくて、何人か他の人も来て、一生懸命折っていました。

折紙協会の雰囲気とても気に入りました。(八王子市大和田6-4-10 井上さゆり)

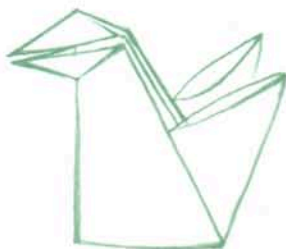
先日は「おりがみ」お願いたしましたところ早速、お送り頂きありがとうございました。立派な本で驚き入りました。二号にあった象の親子、この他感激いたしました。今、ナイロビにおります息子が、夕陽をあげてたずむあかい象の姿は殊更郷愁を誘うものですと言ってきましたが、折紙の象は、その情景を私に連想させました。

息子は、ひまな時現地の子供に折紙を教えたいと言っておりましたが、こんなの喜ぶだろうと早速に送りました。

(世田谷区松原5-38-3 清水か与恵)

ちっとも落ち着きのないムスコ(10歳)のためにも思っていました。でもいま折っているのはウチのヤドロク。紙をオモテにしたりウラにしたり。わが最愛の？夫の新しい一面を発見した思っています。ありがとうございます。

(富山市古町通 高木宏子)



はじめて買ってみました。折ってみればはじめはむずかしそうにみえた折り方もあんがいらくでした。私はちよつともつたいなかつたんですけど表紙を取ってしまつて、折り方記号と基本形の折り方を机に貼って折っています。いちいち本をひっくりかえす手間がはぶけてとても便利です。

(沼津市大塚15 原田新子)

作品募集

次の要領で作品を募集します。ふるって御応募下さい。よい作品は本誌で紹介いたします。課題作品、自由課題とも必ず創作であることが条件です。

★課題作品

- この号のオリガミツリーの中にある鶴の基本形から発展したものを。

★自由課題

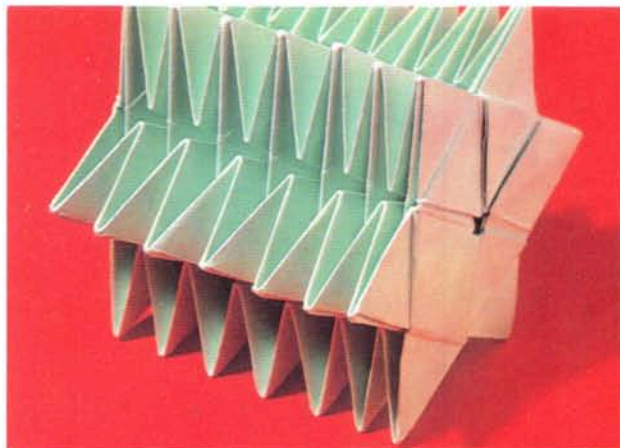
- 正方形、または単純な幾何形（長方形、正三角形、二等辺三角形、菱形など）をもとにした折紙作品ならどんな題材でもけっこうです。
- 作品はひとつの作品について二つ同じものを折ってお送り下さい。
- 折り図（作り方を示す図）を必ず添付して下さい。記号は本誌で採用している方法でお願いいたします。

選と評——大橋皓也



くわがた——平井 俊

細部までくわがたの生態にせまる具象的作品ですが、こうした傾向の作品の中では、最も成功したものの一つとして、とりあげてみました。折紙による写生といった性格をもつものでしょうから、テッサンなども大いにやられたらよいと思います。



じゃばら6つ星——藤本修三

高校の理科の先生とか。確かに、数理的で知的な明快さを感じさせる作品ばかりです。こうした傾向の作品は、日本では、これまであまり育たなかったのですが、私は、具象的傾向とともに、もう一方の柱として、ぜひ、発展させたいものだと考えています。大いに期待しています。



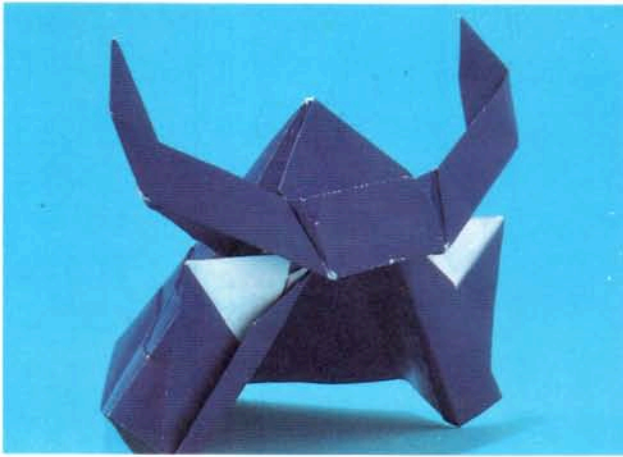
龍——安東 泰

毎回作品を寄せてこられ、腕も、徐々に上っているようです。欲をいえば、この基本形から、さらに一步踏み出してほしいように思います。

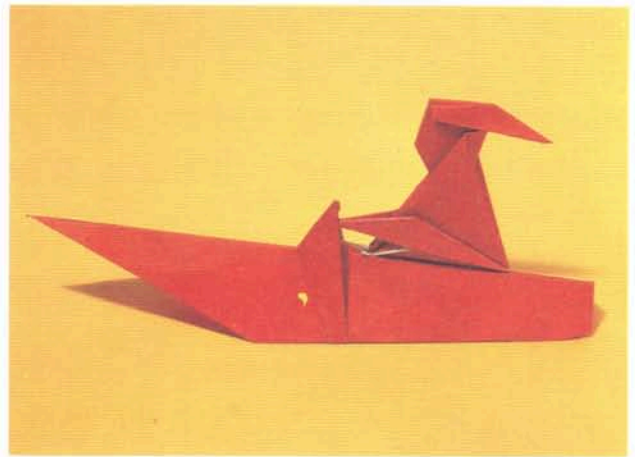


ひよこ——津田良夫

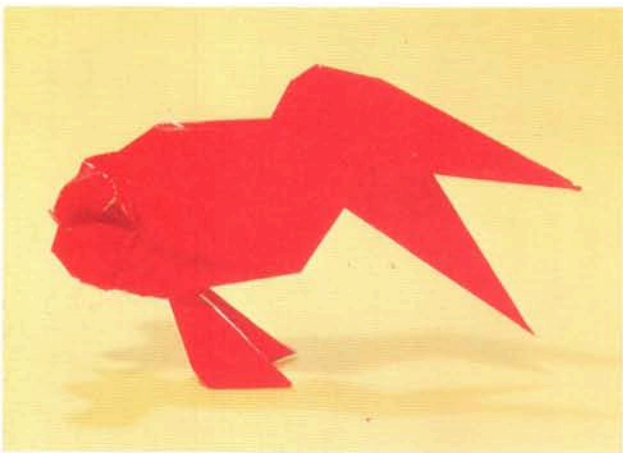
ペーすは鶴でしょうか。基本折りから出発し無駄折りも少く、立体感のある見事な作品です。



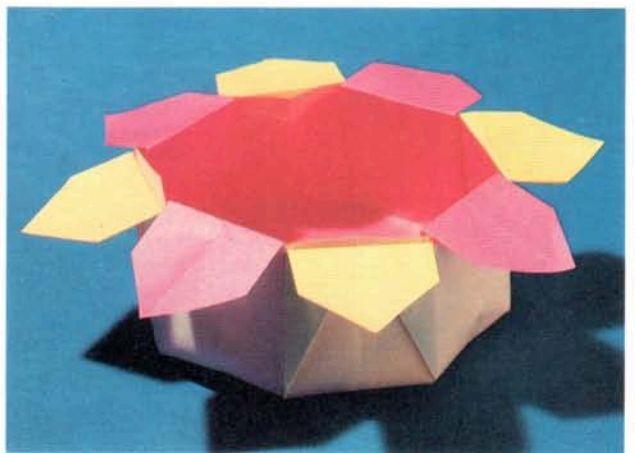
兜——津田良夫
豪華な兜の感じが、切りこみも入れずによく表現されています。ただ、難点は、折りが大へん複雑で、わかりにくいことでしょう。もう少し、簡単に折れて、この感じが表現できれば、申し分ありません。



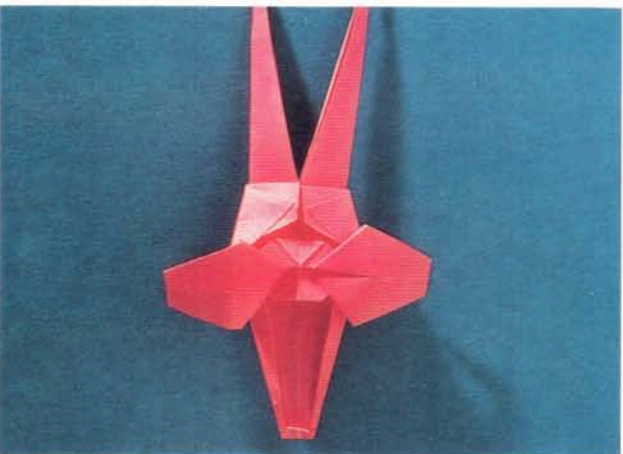
モーターボート——鴨田重裕
鶴の基本形からすぐできる作品ですが、手の部分だけはさみが入っています。小学校5年生とのこと。すばらしい創作だと思います。



出目金——木村 憲
いい作品たくさんありがとうございました。なかでも、この金魚が感じよくて選んでみました。はさみが入っているのが、ちょっと気になります。はさみやのりの使い方がこれからの課題かと思います。



キャンデーボックス——隈元アツ
八角形のかしばちを二つ重ねたもの。八角形のかしばちは、従来からあるものですが、二枚重ねたのがアイデアです。花もようのように美しいキャンデーボックスですね。



ニャロメ——木村良寿
マンガの表情をシャープにとらえています。毎回応募されていますが、10月号のフーテンの寅さんと今回のニャロメなどは、特に、ユーモラスで、傑作だと思います。



飛翔する鶴——名城聖哲
御家族3人で寄せられた作品。それぞれ持味があって、おもしろく拝見しました。皆さん、アルミホイルを使っているのも独特です。形のくずれない点、自由に曲面が折れることなど、利点も多く、これからの折紙の一つの方向かと思います。

編集後記

今月号から「おりがみ」を担当するようになりました。よろしくお願ひします。現在、この雑誌をどうするか暗中模索の状態です。みなさんからの御意見を参考に、とにかく面白くて楽しくて、しかも「折紙の心」を伝えられるような雑誌にしたいと思っています。どんな御意見でも結構ですから、どんどんお便り下さい。

ところで、今月号初登場した「おりがみ童話」はいかがでしたか。第一回は、立原えりかさんと寺田政雄さんによる作品でした。折紙の可能性をよりひろげて行くことも大切な仕事だと思っております。それから、同じく初登場の「おりがみ広場」は、完全にみなさんが作るページです。情報の交換、この雑誌に対する感想……と何でも結構です。自由におしやべりできるページにしました。

今月号は、5月号ということ、特集は、「兜」にしました。幼い日を思い出したり、折った兜で遊んだりして、みんな楽しんで下さい。

「あじさいへの想い」の井石さんの新作いかがでしたか？ 今後も素晴らしい新作をたくさん紹介していきたいと思ひます。又、新作とは別なよさをもっている古典にも目をむけていきたいと思ひます。「千羽鶴の挑戦」などは古典と現代のかけ橋になるようなページにしたいと思ひます。

鶴や奴さんを見ていると、時の流れをこえて伝えられてきた作品の重みを感じます。それでは、次号で……。(さとう)

折紙についての問題点が、かなりある。まず、オリジナル作品とは、どこからいえるのか？ 例えば兜——古典の基本形をアレンジして飾りを変えたら、オリジナルになるのだろうか？ やはりこれはアレンジで、古典兜基本形よりのアレンジに誰某作——こうなるのではなからうか？

音楽にはオリジナル作品と編曲という区別がある。しかしドミソで始まる曲も数多くある。それぞれオリジナル作品だ。とすると、オリジナルとアレンジ作品の区別を折紙ではどう取り決めるのか？ この辺を皆なでしっかりと考えて解決していきたいと思う。

◆
こんな問題もある。折紙芸術論である。折紙は、折り方の通り折れば同じ作品が出来る所が長所である。その人にしか折れないという作品を折紙といえるのかどうか？
また、演奏と同じで、同じ作品を折っても折り手(演奏家)によって芸術作品になることも充分考えられる。

こういった諸問題に考え方のあれこれを提起だけしていきたい。解決は、折あることの議論、投書といったものの中から、ある程度の時間をかけて、筋の通った考えやルールにまとめていきたいと、私は考えている(重松)

表紙のことは

ブルー・レン

私の場合、イメージが鮮明でないと、良い作品は生れないようだ。モデルの外形だけでなく図鑑でも動物園でも間に合うが、何といても本来あるべきワールドな状態を見た場合、感激が違ふ。その感動こそが創作の根源であり、生命なのだ。いきおい好きな探鳥をかね

て、題材を求めて海外に出掛けることになる。ブルー・レンはオーストラリアではどこにも見られる鳥の一つである。日本のミソサザイに近い種類で、尾を直角にビツと立てパツと開いて見せる。実に愛嬌のある鳥である。オーストラリアにはこの他ヒタキヤムシクイの中にも、羽や尾を扇のように広げるファン・テールの仲間が多い。彼等は飛ぶというより舞うという方がびつたりで、胡蝶のようにその舞を楽しんでいるかのように見える。

私はこの旅行で、数百羽のヒムネインコやゴシキインコの大群が空を覆うのを見た。始祖鳥のなごりか羽に瓜があるツメバゲリや、ガイドも始めて見るといふ野生のコトドリも見た。

しかし、折り紙で創ることが出来たのは、カンガルー、コアラ、ゴクラクチョウとこのブルー・レンの四つだけである。一つ十万円の高い取材費に付いた訳である。(一九七四年作品)

本紙に作品が掲載されている皆さんです。

- 井石 清 府中市矢崎町1-12-6 都営住宅3-101
- 河合豊彰 世田谷区大原町2-21-3
- 大橋皓也 練馬区東大泉915-2
- 奥田光雄 上福岡市南台2-4-7
- 滝本恒夫 豊岡市桜町22-3
- 青木光枝 文京区根津1-1-7
- 中野独王亭 世田谷区松原1-11-24

- 石井英子 北区滝野川6-6-8
- 加藤酒泉 四日市市元町9-11
- 木島一宣 川崎市中原区木月723 小鷹荘内

新しい直接購読者のみなさんです。

- 阿部礼司、渡辺真澄、久保田愛子、横山文香、佐藤達子、鈴木寛二、赤池 衛、山本ハツ、佐藤ハツエ、石原みち子、細谷京子、古原力当、福岡恵日、吉田佐代子、山田義郎、高橋加奈江、赤木千津、鈴木吉子、安村ちず子、坂田 義岡田 啓、石倉道代、小山 弘、本位田那穂美、福井千賀子、鈴木 豊、村本百合子、沼倉美佐子、米山正子、藤倉志麻子、林 幸子、奥本恭子、岩切ちえ子、阿北多佳子、式場さくよ、近藤律子、森岡正子、小野きみ子、石川恵子、北野さきよ、武田幸子、河面春一、浦野 弘、杉本紀子、堀井常子、桐岡智子、小林千保子、清水みち子、木下昭子、間嶋智恵子、牛山ちなし、坂口玲子、高橋澄子、山崎須美子、杉浦とみ子、金沢久子、川辺愛子、天河ふじ、伊藤秀子、菊地政雄、遠藤正志、小西久雄、南 総男、紺野芳子、堀井ひろ子、平田フミ、菅原イウ、松本孝子、古山才子、鈴木ミツエ、遊佐ミツエ、木幡光子、佐藤八重子、安田美恵子、武藤智子、菅野雅子、山本まり子、大滝義和、阿久津ちよか、相原洋子、徳水ふく、西沢秀子、大枝モト子、小関みち子、山内美代子、若生八重子、藤沢葉子、小杉順一 (敬称略)

おりがみ 第二巻第二号 一九七六年六月一日
編集—日本折紙協会
発行人—下中邦彦
発売—株式会社サンリオ
編集スタッフ—佐藤誠・重松祥司・高橋重行
印刷所—日本折紙協会・東京都品川区西五反田
発行所—日本折紙協会・東京都品川区西五反田
7の22の17 TOCビル1F
電話—東京 494-5354
定価—500円

基本形の折り方 BASIC FOLDS

<p>①</p>	<p>②</p>	<p>③</p>	<p>④</p>
	<p>凧形基本形 (KITE BASE)</p>	<p>菱形基本形 (DIAMOND BASE)</p>	<p>魚形基本形 I (FISH BASE I)</p>
			<p>⑤</p> <p>魚形基本形 II (FISH BASE II)</p>

<p>①</p>	<p>②</p>	<p>③</p>
	<p>④</p>	<p>⑤</p>
<p>⑥</p>	<p>⑦</p>	<p>⑧</p>
<p>正方形基本形 (SQUARE BASE)</p>		<p>鶴の基本形 I (BIRD BASE I)</p>
		<p>鶴の基本形 II (BIRD BASE II)</p>

<p>①</p>	<p>②</p>	<p>③</p>	<p>④</p>
	<p>折り本基本形 (BOOK BASE)</p>	<p>かんのん基本形 (DOUBLE BOOK BASE)</p>	
	<p>⑤</p>	<p>⑥</p>	<p>④</p>
		<p>二そう舟基本形 (DOUBLE BOAT BASE)</p>	<p>⑤</p>
			<p>⑥</p>
			<p>風船基本形 (WATERBOMB BASE)</p>



古典作品
かえる

おりがみは

想い出

おりがみは

やさしさ

静かに静かに

限りなく